

科目名	科目担当代表教員	ページ数
研究方法論A	青 晴海	3
研究方法論A	木村 俊昭	12
研究方法論A	熊野 稔	21
研究方法論A	岡本 佐智子	30
研究方法論A	小西 正人	39
研究方法論A	高橋 保夫	48
研究方法論A	巫 靚	57
研究方法論A	魯 諍	66
研究方法論A	渡部 淳	75
研究方法論A	青 晴海	84
研究方法論A	木村 俊昭	93
研究方法論A	熊野 稔	102
研究方法論A	岡本 佐智子	111
研究方法論A	小西 正人	120
研究方法論A	高橋 保夫	129
研究方法論A	巫 靚	138
研究方法論A	魯 諍	147
研究方法論A	渡部 淳	156
研究方法論B	青 晴海	165
研究方法論B	木村 俊昭	174
研究方法論B	熊野 稔	183
研究方法論B	岡本 佐智子	192
研究方法論B	小西 正人	201
研究方法論B	高橋 保夫	210
研究方法論B	巫 靚	219
研究方法論B	魯 諍	228
研究方法論B	渡部 淳	237
研究方法論B	青 晴海	246
研究方法論B	木村 俊昭	255
研究方法論B	熊野 稔	264
研究方法論B	岡本 佐智子	273
研究方法論B	小西 正人	282
研究方法論B	高橋 保夫	291
研究方法論B	巫 靚	300
研究方法論B	魯 諍	309
研究方法論B	渡部 淳	318
特別課題研究 I	魯 諍	327
特別課題研究 I	青 晴海	339
特別課題研究 I	魯 諍	351
特別課題研究 I	青 晴海	363
特別課題研究 II	魯 諍	375

特別課題研究Ⅱ	魯 諍		387
異文化コミュニケーション研究Ⅰ	岡本 佐智子		399
異文化コミュニケーション研究Ⅱ	渡部 淳		408
国際関係論特別研究Ⅰ	渡部 淳		417
国際関係論特別研究Ⅱ	渡部 淳		426
地域社会特別研究Ⅰ	小西 正人		435
英語学特殊研究	高橋 保夫		444
英米言語文化特殊研究Ⅱ	渡部 淳		453
英語文献翻訳実践演習A	高橋 保夫		462
中国学特殊研究	魯 諍		471
中日言語文化特別演習Ⅰ	巫 靚		480
中日言語文化特別演習Ⅱ	魯 諍		489
中国語文献翻訳実践演習A	巫 靚		498
中国語文献翻訳実践演習B	巫 靚		507
日本語学特殊研究Ⅰ	小西 正人		516
日本語学特殊研究Ⅱ	小西 正人		525
日本言語文化特別研究	小西 正人		534
日本語教育学研究Ⅰ	小西 正人		543
日本語教育学研究Ⅱ	岡本 佐智子		552
日本語教育学演習Ⅰ	岡本 佐智子		561
日本語教育学演習Ⅱ	岡本 佐智子		570
地域活性化システム論	木村 俊昭		579
地域ビジネス特論Ⅰ	木村 俊昭		588
地域ビジネス特論Ⅱ	木村 俊昭		597
地域創生・SDGs特論Ⅰ	木村 俊昭		606
地域創生・SDGs特論Ⅱ	木村 俊昭		615

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	青 晴海						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

指導教員は約30年にわたる国際協力業務の経験がある教員である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	インタビューの記録:録音と書き起こし(トランスクリプト) リサーチクエスションの再検討 関連する文献を探す,読む,整理する	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの分析1:データの整理 ファイリングとデータベース	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第10回	データの分析2:コーディング オープンコーディングと軸足コーディング	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第11回	データの分析3:概念化 カテゴリー間の関係を見つける	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第12回	論文を書く1:データの呈示と解釈	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			

第13回	3 論文を書く2:問題と方法 リサーチクエスチョンに答えているか	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第14回	質的研究の評価基準	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第15回	まとめ	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社

No	著者名 (Author/Editor)	書籍名 (Title)	出版社 (Publisher)	出版年 (Date)	ISBN/ISSN
1	Yin,R	Qualitative research from start to finish	Guilford	2015	1462517978
2	佐藤郁哉	『フィールドワークの技法:問いを育てる仮説をきたえる』	新曜社	2002	4788507889
3	Corbin,J.Strauss,A/ 操華子・森岡崇訳	『質的研究の基礎:グラウンデッドセオリーの技法と手順(第3版)』	医学書院	2012	4260012010
4	箕浦康子	『フィールドワークの技法と実際Ⅱ』	ミネルヴァ書房	2009	9784623053551
5	ブラサド／箕浦監訳	『質的研究のための理論入門』	ナカニシヤ出版	2018	9784779512230

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭						
授業の位置づけ							
言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる(関心・意欲・態度) 各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけることができる(思考・判断・表現) 地域創生の本質、修士論文のリサーチクエスチョン、テーマ設定と研究方法等を学び、習い、問い立てを十分に身に付けるもの。							

地域社会における解決すべき問題点を見つけることができる。どのように解決すべきか、先行研究を調査研究し、テーマを選定することができる。地域創生・SDGsに関する自らのテーマに基づき、修士論文を執筆する力を身に付けることができる。

授業の方法

対面による対話重視の講義とする。

ICT活用

参考資料等はすべてオンライン、ペーパーレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席すること。

実務経験のある教員の教育内容

これまで、修士論文、博士論文の作成を指導してきた実績上、テーマの設定から先行研究の整理、仮説の立て方、最適な立証方法、全体のストーリー性等を指導するもの。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義時に質疑の時間、対話の時間を設ける、また、講義時、適宜、理解度を確認する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	講義全体の流れ説明、各自テーマ・概要を発表、指導アドバイス、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第2回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話論文とは何か？を学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第3回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話論文完成までのプロセスとは何か？を学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第4回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 誰を対象に書くのか？を学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第5回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 何をテーマにするのか？を学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第6回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 効果的な調査研究の仕方を考えよう！に関して、学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第7回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 論文構造をよく知ろう！に関して学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第8回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 主題を設定してみよう！に関して学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第9回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 先行研究の調査・収集の仕方とは？を学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第10回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 筋の良いリサーチクエスチョンとは？を学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第11回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 仮説の立て方とは？を学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第12回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 概念の定義の仕方とは？を学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第13回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 証拠を揃えよう！に関して学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第14回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話 構成の決め方とは？を学び、習い、問い立てする。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第15回	各自のテーマ・概要の発表、助言アドバイス、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	対話状況や発表を総合的に判断、評価するもの。
その他	0	なし。
教科書		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)のほか、適宜、紹介するもの。		
参考文献		

随時、講義時に紹介するもの。

履修条件・留意事項等

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	熊野 稔						
授業の位置づけ							
大学院のディプロマ・ポリシーにおける、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。(知識・技能)・言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる。(関心・意欲・態度)・各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)に位置づけられる。地域創生の本質、修士論文のリサーチクエスト、テーマ設定と研究方法等を学び、習い、問い立てを十分に身に付けるもの。							
授業の概要							
地域創生・SDGsに関するテーマの課題整理、先行研究、仮説を立て、その立証方法を考え、いかに新規性ある研究開発、修士論文を執筆するか、指導するもの。							
到達目標							

院生本人がテーマとする学術論文を適切に調査分析することができる。
 院生本人がテーマとする学術論文を目的、調査、結論を適切に完結させて、完成することができる。
 院生本人がテーマとする学術論文を完成させてそれを適切に発表できる。

授業の方法

対面による対話重視の講義とする。

ICT活用

参考資料等はすべてオンライン、ペーパーレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席すること。

実務経験のある教員の教育内容

これまで、修士論文、博士論文の作成を指導してきた実績上、テーマの設定から先行研究の整理、仮説の立て方、最適な立証方法、全体のストーリー性等を指導するもの。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義時に質疑の時間、対話の時間を設ける、また、講義時、適宜、理解度を確認する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	講義全体の流れ説明、各自テーマ・概要を発表、指導アドバイス、質疑応答。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
第2回	先行研究の文献検索手法、修士論文作成に関する基礎的な講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
第3回	先行研究の文献検索手法と実際の検索、修士論文作成に関する基礎的な講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		

第4回	先行研究論文の整理と発表、研究開発、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
第5回	研究の背景と目的の書き方、調査方法の手法、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
第6回	調査方法の統計的分析手法、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		

第7回	調査方法における生成AIの活用手法、研究開発、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
第8回	調査方法における生成AIの活用手法と実例検証、研究開発、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
第9回	調査集計、分析方法論①、研究開発、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		

第10回	調査集計、分析方法論②、研究開発、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
第11回	多変量解析を学ぶ、研究開発、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
第12回	論文の纏め方、発表の仕方、研究開発、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		

第13回	論文策定途上の中間発表と指導、研究開発、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
第14回	論文作成手法と纏め①、研究開発、修士論文作成に関する講義と対話。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
第15回	各自のテーマ・概要の発表、助言アドバイス、総括。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	対話状況や発表を総合的に判断、評価するもの。
その他	0	なし。
教科書		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)のほか、適宜、紹介するもの。		
参考文献		

随時、講義時に紹介するもの。

履修条件・留意事項等

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。) これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。) これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(高橋 保夫)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。) これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(巫 靚)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	巫 靚						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学習する。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学習する。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第4回	『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」について具体的に学習する。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「人文科学的方法」について具体的に学習する。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「哲学的方法」について具体的に学ぶ。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第7回	論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学習する。	山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第8回	歴史学方法論①総論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第9回	歴史学実践論①:総論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第10回	歴史学方法論②文献史学	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第11回	歴史学実践論②:文献史学	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第12回	歴史学方法論③:口述史	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第13回	歴史学実践論③:口述史	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第14回	歴史学方法論④:考古学・文献史学(前近代)	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第15回	郷土史研究論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯 諍		
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯 諍		
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯 諍		

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」の区別について学修する。	『最新版 論文の教室』第6章を 読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員	魯 諍		
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「人文科学的方法」について具体的に学修する。 量的研究法、質的研究法、混合研究法を使用した研究の事例を紹介する。	指定する文献を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員	魯 諍		
第6回	論証の方法(3) 受講者の研究テーマに適する研究方法について検討する。	指定する文献を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員	魯 諍		

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯 諍		
第8回	データの収集と分析(1) 内容分析について学修する① ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』の下記の各章を読む。 第1章イントロダクション 第2章社会科学のツールとしての内容分析 第3章内容分析のデザイン	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯 諍		
第9回	データの収集と分析(2) 内容分析について学修する② ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』下記の下記の各章を読む。 第4章測定 第5章サンプリング 第6章信頼性	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯 諍		

第10回	データの収集と分析(3) 内容分析について学修する③ ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『 内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』下 記の各章を読む。 第7章妥当性 第8章データ分析 第9章コンピュータ	該当文献を読んでしっかりと理 解しておく(120分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員	魯 諍		
第11回	データの収集と分析(4) 言説分析について学修する① この回は「言説」とは何かについて学修する。	該当文献を読んでしっかりと理 解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員	魯 諍		
第12回	データの収集と分析(5) 言説分析について学修する② ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研 究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。 第2章テキスト、社会的出来事、社会的実践 第3章間テキスト性と前提	該当文献を読んでしっかりと理 解しておく(120分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員	魯 諍		

第13回	データの収集と分析(6) 言説分析について学修する③ ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。 第4章ジャンルとジャンル構造 第5章文と文および節と節の間の意味関係	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯 諍		
第14回	データの収集と分析(7) 言説分析について学修する④ ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。 第7章ディスコース群 第8章社会的出来事の表象	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯 諍		
第15回	受講者の研究テーマに適する研究方法を再確認し、研究の事例を紹介する。	自分自身の研究に適する研究方法を考える(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ 勁草書房
 『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』ノーマン・フェアクラフ くろしお出版
 『混合研究法の基礎』チャールズ・テッドリー アッバス・タシヤコリ 西村書店
 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)。 これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	青 晴海						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

指導教員は約30年にわたる国際協力業務の経験がある教員である。海外駐在の経験もあり、課題解決型授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式について学修する。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文について学修する。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論証の方法1:論文のつくりかたについて『最新版 論文の教室』第6章から論証の方法について学ぶ。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第5回	論証の方法2:論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法3:論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第7回	論文作成上の倫理について学ぶ。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	インタビューの記録について	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの分析方法1:データの整理方法について	該当文献を読んでおく(90分)	発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)
担当教員			

第10回	データの分析方法2:コーディングについて	該当文献を読んでおく(90分)	発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)
担当教員			
第11回	データの分析3:概念化について	該当文献を読んでおく(90分)	発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)
担当教員			
第12回	論文を書く1:データの呈示と解釈	該当文献を読んでおく(90分)	発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)
担当教員			

第13回	論文を書く2:問題と方法 リサーチクエスチョンに答えているか	該当文献を読んでおく(90分)	発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)
担当教員			
第14回	質的研究の評価基準	該当文献を読んでおく(90分)	発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	該当文献を読んでおく(90分)	発表アウトライン(パワーポイント) を整理しておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社No	
著者名 (Author/Editor)	書籍名 (Title) 出版社 (Publisher) 出版年 (Date) ISBN/ISSN
1 Yin,R	Qualitative research from start to finish Guilford 2015 1462517978
2 佐藤郁哉	『フィールドワークの技法:問いを育てる仮説をきたえる』 新曜社 2002 4788507889
3 Corbin,J.Strauss,A/ 操華子・森岡崇訳	『質的研究の基礎:グラウンデッドセオリーの技法と手順(第3版)』 医学書院 2012 4260012010
4 箕浦康子	『フィールドワークの技法と実際Ⅱ』 ミネルヴァ書房 2009 9784623053551
5 ブラサド／箕浦監訳	『質的研究のための理論入門』 ナカニシヤ出版 2018 9784779512230
履修条件・留意事項等	
備考欄	

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭						
授業の位置づけ							
言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる(関心・意欲・態度)各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけることができる(思考・判断・表現) いかに問題点、課題を整理し、そこからテーマ、リサーチクエスションを見つけ出し、先行研究の整理、仮説を立て、最適な立証方法を考える、そして、まとめるチカラを養うもの。							
授業の概要							
地域創生・SDGsに関する学術論文の書き方を重点的に指導するもの。							
到達目標							

本人が地域社会の問題点から課題を発見する力を養うことができる。筋のよいリサーチクエストを思考することができる。社会貢献や地域貢献となるテーマに基づく学術論文を完成させることができる。

授業の方法

対面の対話方式とする。

ICT活用

関係資料等はすべてオンライン対応とし、ペーパーレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席のこと。

実務経験のある教員の教育内容

修士課程、博士課程における論文指導をしてきた経験から、具体的な論文指導となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義時に個別対応することにより、随時、アドバイス、助言する。また、講義時に理解度を確認するもの。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	講義全体の説明、各自の研究テーマの確認、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第2回	論文とは何か？の講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第3回	論文作成のプロセスに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第4回	論文テーマに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第5回	論文構造に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第6回	論文テーマの先行研究に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第7回	論文の仮説に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第8回	論文作成の証拠に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第9回	論文作成の構成に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第10回	論文作成時の禁止事項に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第11回	説得力ある論文に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第12回	論文査読に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第13回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第14回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第15回	各自修士論文概要の発表、助言・アドバイス、総評、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表や対話による総合評価とするもの。
その他	0	なし。
教科書		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)ほか、随時、講義時に紹介する。		
参考文献		

必要に応じ、随時、講義時に紹介する。

履修条件・留意事項等

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	熊野 稔						
授業の位置づけ							
大学院のディプロマ・ポリシーにおける、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。(知識・技能)・言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる。(関心・意欲・態度)・各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)に位置づけられる。いかに問題点、課題を整理し、そこからテーマ、リサーチクエスチョンを見つけ出し、先行研究の整理、仮説を立て、最適な立証方法を考える、そして、まとめるチカラを養う。							
授業の概要							
地域創生・SDGsに関する学術論文の書き方を重点的に指導するもの。							
到達目標							

院生本人がテーマとする学術論文を適切に調査分析することができる。
 院生本人がテーマとする学術論文を目的、調査、結論を適切に完結させて、完成することができる。
 院生本人がテーマとする学術論文を完成させてそれを適切に発表できる。

授業の方法

対面の対話方式とする。

ICT活用

関係資料等はすべてオンライン対応とし、ペーパーレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席のこと。

実務経験のある教員の教育内容

修士課程、博士課程における論文指導をしてきた経験から、具体的な論文指導となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義時に個別対応することにより、随時、アドバイス、助言する。また、講義時に理解度を確認するもの。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	講義全体の説明、各自の研究テーマの確認、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第2回	論文とは何か？の講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第3回	論文作成のプロセスに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		

第4回	論文テーマに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第5回	論文構造に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第6回	論文テーマの先行研究に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		

第7回	論文の仮説に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第8回	論文作成の証拠に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第9回	論文作成の構成に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		

第10回	論文作成時の禁止事項に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第11回	説得力ある論文に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第12回	論文査読に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		

第13回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第14回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第15回	各自修士論文概要の発表、助言・アドバイス、総評、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表や対話による総合評価とするもの。
その他	0	なし。
教科書		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)ほか、随時、講義時に紹介する。		
参考文献		

必要に応じ、随時、講義時に紹介する。

履修条件・留意事項等

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)。 これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』戸田山和久,NHK出版 『勝つための論文の書き方』鹿島茂,文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』山口裕之, 新曜社
 『言語研究の技法 データの収集と分析』藤村逸子・滝沢直宏編, ひつじ書房
 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』辻幸夫監修, ひつじ書房
 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)。 これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(高橋 保夫)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)。 これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(巫 靚)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	巫 靚						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学習する。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学習する。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第4回	『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。論証の方法(1)論証の方法のうち、「自然科学的方法」について具体的に学習する。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第5回	論証の方法(2)論証の方法のうち、「人文科学的方法」について具体的に学習する。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第6回	論証の方法(3)論証の方法のうち、「哲学的方法」について具体的に学ぶ。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第7回	論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学習する。	山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第8回	歴史学方法論①総論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第9回	歴史学実践論①:総論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第10回	歴史学方法論②文献史学	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第11回	歴史学実践論②:文献史学	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第12回	歴史学方法論③:口述史	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			

第13回	歴史学実践論③:口述史	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第14回	歴史学方法論④:考古学・文献史学(前近代)	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
第15回	郷土史研究論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」の区別について学修する。	『最新版 論文の教室』第6章を 読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「人文科学的方法」について具体的に学修する。 量的研究法、質的研究法、混合研究法を使用した研究の事例を紹介する。	指定する文献を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 受講者の研究テーマに適する研究方法について検討する。	指定する文献を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 内容分析について学修する① ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリック・フィコ著『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』の下記の各章を読む。 第1章イントロダクション 第2章社会科学のツールとしての内容分析 第3章内容分析のデザイン	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 内容分析について学修する② ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリック・フィコ著『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』下記の各章を読む。 第4章測定 第5章サンプリング 第6章信頼性	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第10回	データの収集と分析(3) 内容分析について学修する③ ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『 内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』下 記の各章を読む。 第7章妥当性 第8章データ分析 第9章コンピュータ	該当文献を読んでしっかりと理 解しておく(120分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第11回	データの収集と分析(4) 言説分析について学修する① この回は「言説」とは何かについて学修する。	該当文献を読んでしっかりと理 解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			
第12回	データの収集と分析(5) 言説分析について学修する② ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研 究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。 第2章テキスト、社会的出来事、社会的実践 第3章間テキスト性と前提	該当文献を読んでしっかりと理 解しておく(120分)	授業内容を整理し、確認する (90分)
担当教員			

第13回	データの収集と分析(6) 言説分析について学修する③ ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。 第4章ジャンルとジャンル構造 第5章文と文および節と節の間の意味関係	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	データの収集と分析(7) 言説分析について学修する④ ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』の下記の各章を読む。 第7章ディスコース群 第8章社会的出来事の表象	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	受講者の研究テーマに適する研究方法を再確認し、研究の事例を紹介する。	自分自身の研究に適する研究方法を考える(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『内容分析の進め方——メディア・メッセージを読み解く』ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ 勁草書房
 『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』ノーマン・フェアクラフ くろしお出版
 『混合研究法の基礎』チャールズ・テッドリー アッバス・タシヤコリ 西村書店
 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論A(渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)。 これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。 3. 論文としての新しい知見は何か。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。
その他	0	
教科書		
『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。		
参考文献		

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

指導する教員は、国際協力の現場で約30年勤務した経験ある教員である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	論拠を示すとき的事实(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論文の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

修士論文、博士論文の作成を指導してきた実績上、テーマの設定から先行研究の整理、仮説の立て方、最適な立証方法、全体のストーリー性等を指導するもの。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは？ 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていくことを確認するもの。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておくこと。(90分)	研究テーマの選定理由、見直しの必要性を確認しておくこと。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第2回	論文の基本的な構成とは？ 序・本・結論の役割のうち、序論の役割に関して学び、習い、問い立てする。履修者は、論文モデルに基づき、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を説明できるようにするもの。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと。(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておくこと。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第3回	本論の役割とは？ 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことに関して対話する。 本論構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析するもの。	各自の論文テーマを絞り、ネットで先行研究を調べておくこと。(90分)	論拠を示すときの実事(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと。(90分)
担当教員	木村 俊昭		

第4回	本論の書き方とは？ 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにより、事柄データから考察表現までの演習を行うもの。	各自の論文テーマに関する関連資料を集めておくこと。(90分)	論文テーマに関する先行研究、データをできるだけ多く収集しておくこと。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第5回	論文の展開方法とは？ データ積み上げ型、結論先取り型による展開方法により、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習するもの。	各自の論文テーマの構成を完成しておくこと。(90分)	論文テーマを決定しておくこと。また、関連情報をネット等で収集すること。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第6回	データ収集の方法とは？ 図書館やインターネット等で、テーマに関連する先行研究やデータの集め方を講義し、実際に学術論文を検索し、各自の論文テーマが「修論」として最適かを考察するもの。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと。(90分)	研究テーマに関する学術論文(先行研究)をできるだけ多く集め、精読しておくこと。(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		

第7回	論文における結びの役割とは？ 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習するもの。	研究テーマの学術論文や書籍における参考文献を熟読しておくこと。(90分)	先行研究のうち、重要な学術論文や書籍を熟読しておくこと。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第8回	図表や資料に関する表現とは？ 図表やデータを用いて、論文を分かりやすくする、表現パターンを学ぶもの。 効果的な図表の作成方法を受講者同士で対話してみる。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選ん でおくこと。(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、 必要と考える内容を図表にして おくこと。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第9回	資料・調査に関する表現とは？ 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似した データ資料を対比しておくこと。 (90分)	アンケート調査をする場合、質 問項目の有効性を分析しておく こと。またデータの解析方法も決 めておくこと。(90分)
担当教員	木村 俊昭		

第10回	研究テーマに関する先行研究とは？ 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと。(90分)	先行研究のレポートを作成していく。(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
第11回	研究テーマの先行研究をまとめるには？ 先行研究に対する意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめること。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていくもの。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと。(90分)	先行研究のレポートを作成すると同時に、関連資料を収集すること。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第12回	先行研究をまとめよう。 これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと。(90分)	先行研究の整理を進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと。(90分)
担当教員	木村 俊昭		

第13回	参考文献の表し方とは？ 言語学や社会学、心理学、経営学や行動経済学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習するもの。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと。(90分)	学術論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと。(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと。(90分)
担当教員	木村 俊昭		
第15回	論文の本論を作成しよう。 論文の核となる部分を提出し、指導を受ける。 論文全体の構成を検討するもの。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと。(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること。(90分以上)
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	なし。
教科書		
「社会人のための学術論文の書き方」(東京農大出版会・木村俊昭著)ほか、研究領域に関する論文参考資料を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	熊野 稔						
授業の位置づけ							
大学院のディプロマ・ポリシーにおける、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。(知識・技能)・言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる。(関心・意欲・態度)・各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)に位置づけられる。論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

院生本人がテーマとする学術論文を適切に調査分析することができる。
 院生本人がテーマとする学術論文を目的、調査、結論を適切に完結させて、完成することができる。
 院生本人がテーマとする学術論文を完成させてそれを適切に発表できる。1. 論文とは何かを説明できる。2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。4. 先行研究を批判的に読むことができる。5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
 受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
 受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

地域都市計画等の調査計画、調査研究などを行政等から委託を受けて実際に行ってきた実務経歴がある。また国立大学で博士号を実際に複数名指導して輩出、実績があるドクター○合である。修士論文、博士論文の作成を指導してきた実績上、私がテーマの設定から先行研究の整理、仮説の立て方、最適な立証方法、全体のストーリー性等を指導する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは？ 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていくことを確認するもの。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておくこと。(90分)	研究テーマの選定理由、見直しの必要性を確認しておくこと。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第2回	論文の基本的な構成とは？ 序・本・結論の役割のうち、序論の役割に関して学び、習い、問い立てする。履修者は、論文モデルに基づき、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を説明できるようにするもの。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと。(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておくこと。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第3回	本論の役割とは？ 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことに関して対話する。 本論構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析するもの。	各自の論文テーマを絞り、ネットで先行研究を調べておくこと。(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと。(90分)
担当教員	熊野 稔		

第4回	本論の書き方とは？ 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにより、事柄データから考察表現までの演習を行うもの。	各自の論文テーマに関する関連資料を集めておくこと。(90分)	論文テーマに関する先行研究、データをできるだけ多く収集しておくこと。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第5回	論文の展開方法とは？ データ積み上げ型、結論先取り型による展開方法により、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習するもの。	各自の論文テーマの構成を完成しておくこと。(90分)	論文テーマを決定しておくこと。また、関連情報をネット等で収集すること。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第6回	データ収集の方法とは？ 図書館やインターネット等で、テーマに関連する先行研究やデータの集め方を講義し、実際に学術論文を検索し、各自の論文テーマが「修論」として最適かを考察するもの。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと。(90分)	研究テーマに関する学術論文(先行研究)をできるだけ多く集め、精読しておくこと。(90分以上)
担当教員	熊野 稔		

第7回	論文における結びの役割とは？ 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習するもの。	研究テーマの学術論文や書籍における参考文献を熟読しておくこと。(90分)	先行研究のうち、重要な学術論文や書籍を熟読しておくこと。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第8回	図表や資料に関する表現とは？ 図表やデータを用いて、論文を分かりやすくする、表現パターンを学ぶもの。 効果的な図表の作成方法を受講者同士で対話してみる。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選ん でおくこと。(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、必要と考える内容を図表にして おくこと。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第9回	資料・調査に関する表現とは？ 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと。(90分)	アンケート調査をする場合、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと。(90分)
担当教員	熊野 稔		

第10回	研究テーマに関する先行研究とは？ 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと。(90分)	先行研究のレポートを作成していく。(90分以上)
担当教員	熊野 稔		
第11回	研究テーマの先行研究をまとめるには？ 先行研究に対する意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめること。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていくもの。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと。(90分)	先行研究のレポートを作成すると同時に、関連資料を収集すること。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第12回	先行研究をまとめよう。 これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと。(90分)	先行研究の整理を進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと。(90分)
担当教員	熊野 稔		

第13回	参考文献の表し方とは？ 言語学や社会学、心理学、経営学や行動経済学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習するもの。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと。(90分)	学術論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと。(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと。(90分)
担当教員	熊野 稔		
第15回	論文の本論を作成しよう。 論文の核となる部分を提出し、指導を受ける。 論文全体の構成を検討するもの。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと。(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること。(90分以上)
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	なし。
教科書		
「社会人のための学術論文の書き方」(東京農大出版会・木村俊昭著)ほか、研究領域に関する論文参考資料を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの実事(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(高橋 保夫)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの実事(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(巫 靚)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは、論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成について学習する。実物の修士論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)。	研究テーマの見直しをしておく(90分)。
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成、序・本・結論の役割のうち、序論の役割について学習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)。	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)。
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)。	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておく(90分)。
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておく(90分)。	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておく(90分)。
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)。	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)。
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておく(90分)。	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておく(90分以上)。
担当教員			

第7回	論文における結びの役割、結びの構成、全体のまとめの構成のパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)。	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)。
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)。	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)。
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておく(90分)。	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておく(90分)。
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておく(90分)。	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)。
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておく(90分)。	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)。
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。論文のテーマ変更はこの時期に決定しておく。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておく(90分)。	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文章化しておく(90分)。
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおく(90分)。	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておく(90分)。
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておく(90分)。	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておく(90分)。
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておく(90分)。	先行研究レポートを指定期日までに提出する(90分以上)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

GoogleClassroomやメール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員	魯 諍		
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員	魯 諍		
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの実事(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員	魯 諍		
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員	魯 諍		
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの実事(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(青 晴海)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	青 晴海						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの実事(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭						
授業の位置づけ							
言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる(関心・意欲・態度) 各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけることができる(思考・判断・表現) いかに問題点、課題を整理し、そこからテーマ、リサーチクエスションを見つけ出し、先行研究の整理、仮説を立て、最適な立証方法を考える、 そして、まとめるチカラを養うもの。							
授業の概要							
地域創生・SDGsに関する学術論文の書き方を重点的に指導するもの。							
到達目標							

論文テーマは何が最適なのかを思考する能力を研ぐことができる。筋のよいリサーチクエスチョンを自ら発見することができる。論文構成、流れの良い論文の書き方を研ぐことができる。

授業の方法

対面の対話方式とする。

ICT活用

関係資料等はすべてオンライン対応とし、ペーパーレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席のこと。

実務経験のある教員の教育内容

修士課程、博士課程における論文指導をしてきた経験から、具体的な論文指導となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義時に個別対応することにより、随時、アドバイス、助言する。また、講義時に理解度を確認するもの。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	講義全体の説明、各自の研究テーマの確認、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第2回	社会貢献、地域貢献する論文とは何か？の講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第3回	最適な論文作成のプロセスに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第4回	リサーチクエスチョンを踏まえた論文テーマに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第5回	流れの良い論文構造に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第6回	社会学系の論文テーマの先行研究に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第7回	自分の論文テーマを踏まえた的確な仮説に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第8回	論文作成の最適な証拠に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村 俊昭		
第9回	論文作成のポイント、筋の良い構成に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第10回	論文作成時の禁止事項に関する講義 (AI等を含む)、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第11回	一歩進めた説得力ある学術論文に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第12回	論文査読のポイントに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		

第13回	修士論文の執筆に関する講義(留意事項)、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第14回	修士論文執筆に関する講義(重要事項)、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
第15回	各自修士論文概要の発表、助言・アドバイス、総評、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表や対話による総合評価とするもの。
その他	0	なし。
教科書		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)ほか、必要に応じて、随時、講義時に紹介する。		
参考文献		

必要に応じて、随時、講義時に紹介する。

履修条件・留意事項等

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	熊野 稔						
授業の位置づけ							
大学院のディプロマ・ポリシーにおける、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。(知識・技能)・言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる。(関心・意欲・態度)・各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)に位置づけられる。研究方法Aよりもさらに高度に、いかに問題点、課題を整理し、そこからテーマ、リサーチクエスチョンを見つけ出し、先行研究の整理、仮説を立て、最適な立証方法を考える、そして、まとめるチカラを養う。							
授業の概要							
地域創生・SDGsに関する学術論文の書き方を重点的に指導するもの。							
到達目標							

院生本人がテーマとする学術論文を適切に調査分析することができる。
 院生本人がテーマとする学術論文を目的、調査、結論を適切に完結させて、完成することができる。
 院生本人がテーマとする学術論文を完成させてそれを適切に発表できる。本人がテーマとする学術論文を最終的に完成させることができる。

授業の方法

対面の対話方式とする。

ICT活用

関係資料等はすべてオンライン対応とし、ペーパーレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席のこと。

実務経験のある教員の教育内容

修士課程、博士課程における論文指導をしてきた経験から、具体的な論文指導となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義時に個別対応することにより、随時、アドバイス、助言する。また、講義時に理解度を確認するもの。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	講義全体の説明、各自の研究テーマの確認、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第2回	論文とは何か？の講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第3回	先行研究整理、論文作成のプロセスに関する講義、対話、 質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		

第4回	論文テーマに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第5回	研究の背景と目的の整理、論文構造に関する講義、対話、 質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第6回	論文テーマの先行研究に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		

第7回	論文の仮説に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第8回	論文作成の証拠に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第9回	論文作成の構成に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		

第10回	論文作成時の禁止事項に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第11回	説得力ある論文に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第12回	論文査読に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		

第13回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第14回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
第15回	各自修士論文概要の発表、助言・アドバイス、総評、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分	講義内容の整理、テキスト熟読 90分
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表や対話による総合評価とするもの。
その他	0	なし。
教科書		
「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭(東京農業大学出版会)ほか、随時、講義時に紹介する。		
参考文献		

必要に応じ、随時、講義時に紹介する。

履修条件・留意事項等

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(高橋 保夫)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの実事(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス														
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科												
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A												
科目名		研究方法論B(巫 靚)				ナンバリング								
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2							
担当教員	巫 靚													
授業の位置づけ														
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。														
授業の概要														
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。														
到達目標														

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは、論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成について学習する。実物の修士論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)。	研究テーマの見直しをしておく(90分)。
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成、序・本・結論の役割のうち、序論の役割について学習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)。	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)。
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究—問題提起—方向付け—全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。ここでは本論の構成として、論拠提示—結論提示—行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)。	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておく(90分)。
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておく(90分)。	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておく(90分)。
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)。	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)。
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておく(90分)。	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておく(90分以上)。
担当教員			

第7回	論文における結びの役割、結びの構成、全体のまとめの構成のパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)。	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)。
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)。	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)。
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておく(90分)。	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておく(90分)。
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておく(90分)。	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)。
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておく(90分)。	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)。
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。論文のテーマ変更はこの時期に決定しておく。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておく(90分)。	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておく(90分)。
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおく(90分)。	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておく(90分)。
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておく(90分)。	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておく(90分)。
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておく(90分)。	先行研究レポートを指定期日までに提出する(90分以上)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

GoogleClassroomやメール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		研究方法論B(渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。							
到達目標							

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとりて考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員			
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員			
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの実事(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員			

第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくとも基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員			
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員			

第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員			
第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員			
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献に当たり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	
教科書		
『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版 ほか、研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。		
参考文献		

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅰ（魯 諍）				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	3
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。							
授業の概要							
修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。 受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。							
到達目標							

1. 専門研究領域について具体的に解説できる。
2. よい論文とは何かが説明できる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。

授業の方法

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。
特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員	魯 諍		
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	学会発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第10回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第11回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第12回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第13回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第14回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	とにかく少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第15回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第16回	論文作成(研究データの整理) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	分析対象となるデータ(コンテンツ)を確認し、熟読する(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第17回	論文作成(研究データの整理) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	分析対象となるデータ(コンテンツ)を確認し、熟読する(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第18回	論文作成(研究データの分析 コーディング 妥当性のチェック) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	研究データに対するコーディング作業を行う(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第19回	論文作成(研究データの分析 コーディング 妥当性のチェック) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	研究データに対するコーディング作業を行う(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第20回	論文作成(研究データの分析 コーディング 妥当性のチェック) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	研究データに対するコーディング作業を行う(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第21回	論文作成(研究データの分析 分析結果の整理) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	データに対する分析の結果を整理する(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第22回	論文作成(研究データの分析 分析結果の整理) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	データに対する分析の結果を整理する(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第23回	論文作成(研究データの分析 分析結果の整理) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	データに対する分析の結果を整理する(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	
教科書		
プリントを配布／配信する。		
参考文献		
研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。		
履修条件・留意事項等		

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅰ（青 晴海）				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	3
担当教員	青 晴海						
授業の位置づけ							
受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。							
授業の概要							
修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。 受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。							
到達目標							

1. 専門研究領域について具体的に解説できる。
2. よい論文とは何かが説明できる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。

授業の方法

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。
特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			

第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			
第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	学会発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			

第10回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく(90分以上)
担当教員			
第11回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員			

第13回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員			
第14回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員			
第15回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員			

第16回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員			
第17回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			
第18回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			

第19回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			
第20回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第21回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			

第22回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第23回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	
教科書		
プリントを配布／配信する。		
参考文献		
研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。		
履修条件・留意事項等		

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅰ（魯 諍）				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	3
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
受講生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。							
授業の概要							
修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。 受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。							
到達目標							

1. 専門研究領域について具体的に解説できる。
2. よい論文とは何かが説明できる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。

授業の方法

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。
特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員	魯 諍		
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員	魯 諍		
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	学会発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第10回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第11回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第12回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第13回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第14回	論文作成 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	とにかく少しでも執筆を進めておく。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第15回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし、研究内容を発表できるようにしておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第16回	論文作成(研究データの整理) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	分析対象となるデータ(コンテンツ)を確認し、熟読する(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第17回	論文作成(研究データの整理) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	分析対象となるデータ(コンテンツ)を確認し、熟読する(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第18回	論文作成(研究データの分析 コーディング 妥当性のチェック) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	研究データに対するコーディング作業を行う(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第19回	論文作成(研究データの分析 コーディング 妥当性のチェック) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	研究データに対するコーディング作業を行う(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第20回	論文作成(研究データの分析 コーディング 妥当性のチェック) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	研究データに対するコーディング作業を行う(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第21回	論文作成(研究データの分析 分析結果の整理) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	データに対する分析の結果を整理する(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第22回	論文作成(研究データの分析 分析結果の整理) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	データに対する分析の結果を整理する(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第23回	論文作成(研究データの分析 分析結果の整理) 引き続き、どんどん執筆をし、指導を受けていく。	データに対する分析の結果を整理する(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続け、次の科目「同Ⅱ」授業前には、最小6割完成を目指す(90分以上)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	
教科書		
プリントを配布／配信する。		
参考文献		
研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。		
履修条件・留意事項等		

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅰ（青 晴海）				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	3
担当教員	青 晴海						
授業の位置づけ							
学生の各専門領域において深く研究したい領域の問題や事柄を論文にまとめ、発表できる能力を身につける科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅱ」に連動する。							
授業の概要							
修士論文完成のための具体的な論文作成指導を行う。 受講生は本論の一部を完成し、学会で発表できるようにするため、より論定の明解な文章の書き方を主体的に学んでいく。							
到達目標							

1. 専門研究領域について具体的に解説できる。
2. よい論文とは何かが説明できる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 論文テーマを深め、自律的に研究できる。

授業の方法

調査方法の学習と問題提起、ディスカッションを中心とする。
特に、先行研究や資料の収集方法と、そこから得た知見を応用して論文執筆したり、発表したりすることができるように演習形式をとる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題提出は、当日に口頭で内容確認のうえ指導するか、次回にコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	院生は論文作成のための進捗状況および研究計画について説明する。	論文テーマの確認をして説明できるようにしておく(90分)	論文テーマの資料整理をしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	論文のテーマを具体的に明文化していく。	論文の序論部分を完成しておく(90分)	序論部分を修正し、研究目的を明らかにする(90分)
担当教員			
第3回	論文テーマに関する代表的な先行研究文献2つを読み、自身の論文に参考になる部分を押さえておく。	先行研究文献2つを読み、引用できる部分を文章化しておく(90分以上)	先行研究の2文献を再度精読し、引用部分を整理しておく(90分以上)
担当教員			

第4回	論文テーマに関する最も新しい文献2冊を読破し、引用部分をレポートにまとめる。	先行研究論文を2件、熟読してまとめておく(90分以上)	先行研究を1文献追加し、引用部分をまとめておく(90分以上)
担当教員			
第5回	論文作成に必要な参考・引用文献のリストを作成し、どの部分が論文作成に重要であるかを確認できるよう、レポートにまとめる。	これまでの先行研究で参考にした文献リストを作成しておくこと(90分以上)	先行研究の論点をまとめ、引用・参考文献の見直しをしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	参考文献・資料をまとめたレポートを提出し、内容について質疑応答する。	参考文献・資料の引用部分とその前後の文脈も加筆してレポートにしておく(90分以上)	研究テーマで不足している参考文献・資料を入手し、精読しておくこと(90分以上)
担当教員			

第7回	学会研究発表会または研究会に向かって、論文の内容構成とテーマ等を再考し、その一部を取り上げて発表用資料を作成する。	論文構成を見直し、問題点と仮説、その論拠と提案までをどのような流れで論証するか明文化しておくこと(90分以上)	論文構成を確立し、これからさらに研究を深める必要のある文献にあたっておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	学会発表会または研究会用の抄録、概要を提出する。修正・訂正が必要な部分の検討を行う。そして中間発表用の論文発表分を完成する。	研究発表会用の配布資料等を作成しておくこと(90分以上)	論文の題名、副題、章立て、節など、内容の校正確認(90分以上)
担当教員			
第9回	学会等研究発表会のプレゼン練習を行う。併せて研究発表に必要な配布資料の確認・検討をする。	研究発表会用のプレゼンテーション準備をしておくこと(90分以上)	学会発表用のスライドの再検討、配布資料の修正をしておく(90分以上)
担当教員			

第10回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	研究発表会で指摘された部分を再考し、修正した論文に直しておく(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく(90分以上)
担当教員			
第11回	公開発表会で指摘された問題点や研究方法等について、どのように対応・改善していくかを報告する。	本文を何度も推敲し、最小30%以上は完成しておく(90分以上)	論文を最小30%以上「完成品」にしておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	論文作成 書けた部分から提出し、指導を受ける。 論文内容や構成に変更があった場合は、今後の研究計画の見直しを行う。	40%以上完成した論文を提出できるように準備しておく(90分以上)	これまでの参考引用文献の見直しを行う。資料についてはその扱いを再検討しておく(90分以上)
担当教員			

第13回	論文作成 引き続き、作成した論文を順次提出し、指導を受ける。	40%の部分(5章構成なら2章分以上)は「完成」論文にしておく。(90分以上)	書きあげた各章の内容に重複する事項がないか等を確認し、各章のタイトルに焦点が絞られた内容にしておく(90分以上)
担当教員			
第14回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			
第15回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証できる文献を探し、論文に加筆していく(90分以上)
担当教員			

第16回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			
第17回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			
第18回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			

第19回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			
第20回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			
第21回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			

第22回	論文作成 引き続き、執筆をし、指導を受けていく。	執筆を進める。併せて先行研究 文献を追加していく(90分以上)	指摘された事柄は、必ず論証で きる文献を探し、論文に加筆し ていく(90分以上)
担当教員			
第23回	論文の50%分を提出し、研究内容の概要をプレゼンする。 論点が整理できているか、明らかになった事項は何かを 発表していく。	論文完成50%を最小の到達とし 、研究内容を発表できるようにし ておく(90分以上)	授業後も各自で論文執筆を続 け、次の科目「同Ⅱ」授業前には 、最小6割完成を目指す(90分 以上)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の指定課題提出100%
その他	0	
教科書		
プリントを配布／配信する。		
参考文献		
研究内容に関する先行研究を適宜紹介していく。		
履修条件・留意事項等		

資料や文献収集に丁寧に地道に取り組み、自律した学習姿勢であることを期待する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ（魯 諍）				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	3
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
優れた修士論文完成に向かって、専門研究を深め研究者としての研究姿勢を身につけるための科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅰ」を承ける形で連動する。							
授業の概要							
修士論文完成のための具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを当日または前日に教員に提出し、その論文の不備や問題で指導を受けた部分を修正・加筆していく。受講生主体の指導型・研究共有型で授業を進めていく。							
到達目標							

1. 論文提出日までに、修士論文にふさわしい内容で、3万字以上の論文を書くことができる。
2. 専門研究領域の論文の書き方にしただって、論文を書くことができる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 資料収集や調査活動では人権的配慮ができる。
5. 学んだ専門研究を社会に還元できる。

授業の方法

基本的に個別指導で修士論文を完成してもらい、
受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、批判的読解の上で引用し、どんどん論文執筆を進めてもらう。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

各回提出の論文執筆部分については、授業内に口頭で指導するだけでなく、課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	受講院生は中間発表で指導、忠告されたことをふまえてどこまで書けたかを報告する。	中間発表時の改訂版を作成しておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を改定しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第2回	第2回目の論文作成経過報告を行う。資料収集が難しいものについては、図書館で検索方法の追加演習を行う。	論文を書き進め、1章分は完成しておくこと(90分以上)	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)
担当教員	魯 諍		
第3回	1章から2章分を「完成」させるための指導を受ける。以前に提出したレポートと比較しながら、研究の深みが出ているか報告する。	論文を書き進め、1・2章分を完成できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分の訂正・追加をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第4回	論文の5割が「完成」してあることを前提に指導を受ける。章構成の見直しがある場合は、そのための別紙案を提出する。	論文の5割を完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文を「完成」に近づけておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第5回	提出論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の6割以上、完成させておくこと(90分以上)	問題点はクリアにしておくこと。論文を「完成」しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第6回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の7割以上、完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文執筆を進めておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第7回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の8割以上、完成させておくこと(3時間以上)	副指導教員の研究指導を受けておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第8回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の8割以上、完成させておくこと(3時間以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第9回	論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。	調査研究部分は、明瞭に示せるように図表化しておくこと(90分以上)	指摘された部分を修正し、論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第10回	論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。	論文の9割以上は完成させておくこと(90分以上)	構成・引用部分を見直し、論文を完成しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第11回	公開発表会のための原稿作成およびその書き方について指導する。あわせて個々に論文指導を受ける。	引用文献も含めて論文を完成させておくこと(90分以上)	論文の9割は見直しがおわっているようにする(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第12回	公開発表原稿の内容・構成について話し合う。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第13回	公開発表原稿の内容・構成について話し合う。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第14回	発表会の予行演習を行う。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第15回	発表会の予行演習を行う。	前回の予行演習で指導を受けた部分を修正すること(90分以上)	論文発表用のハンドアウトを作成しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第16回	発表会で指摘されたことについてどこまで修正できたかを発表する。	発表会で指摘された部分を再確認し、修正すること(90分以上)	指導を受けた部分を修正すること(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第17回	修正された論文の内容について質疑応答。	指摘された部分を修正すること(90分以上)	指導を受けた部分を修正すること(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第18回	修士論文の仕上げについて報告する。	指導を受けた部分を修正すること(90分以上)	指導を受けた部分を修正すること(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第19回	修士論文の内容を確認する。	指導を受けた部分を修正すること(90分以上)	指導を受けた部分を修正し、修士論文の内容を再確認すること(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第20回	各自が十分見直した上での論文を提出する。	論文を完成させ、目次等体裁の確認して提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第21回	修正・追加が必要な部分の指導を受ける。	完成論文を提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は丁寧に加筆しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第22回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。 各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第23回	最終的なチェックを受けた論文を提出し、口頭試験に向けての概要作成のチェックを受ける。	論文提出後にも指導があるので、完璧な論文になるよう改善しておくこと(90分以上)	論文口頭発表のための準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%
その他	0	
教科書		
論文書式は研究テーマ領域の学会書式にならう。		
参考文献		
研究テーマに関する書籍や論文を適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		

週2回程度の授業以外にも論文指導を行うので、どんどん論文作成を進め、研究の進捗状況が報告できるようにすること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ(魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	3
担当教員	魯 諍						

授業の位置づけ

優れた修士論文完成に向かって、専門研究を深め研究者としての研究姿勢を身につけるための科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅰ」を承ける形で連動する。

授業の概要

修士論文完成のための具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを当日または前日に教員に提出し、その論文の不備や問題で指導を受けた部分を修正・加筆していく。受講生主体の指導型・研究共有型で授業を進めていく。

到達目標

1. 論文提出日までに、修士論文にふさわしい内容で、3万字以上の論文を書くことができる。
2. 専門研究領域の論文の書き方にしただって、論文を書くことができる。
3. 先行研究を批判的に読むことができる。
4. 資料収集や調査活動では人権的配慮ができる。
5. 学んだ専門研究を社会に還元できる。

授業の方法

基本的に個別指導で修士論文を完成してもらう。
受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、批判的読解の上で引用し、どんどん論文執筆を進めてもらう。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

各回提出の論文執筆部分については、授業内に口頭で指導するだけでなく、課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	受講院生は中間発表で指導、忠告されたことをふまえてどこまで書けたかを報告する。	中間発表時の改訂版を作成しておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を改定しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第2回	第2回目の論文作成経過報告を行う。資料収集が難しいものについては、図書館で検索方法の追加演習を行う。	論文を書き進め、1章分は完成しておくこと(90分以上)	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)
担当教員	魯 諍		
第3回	1章から2章分を「完成」させるための指導を受ける。以前に提出したレポートと比較しながら、研究の深みが出ているか報告する。	論文を書き進め、1・2章分を完成できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分の訂正・追加をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第4回	論文の5割が「完成」してあることを前提に指導を受ける。章構成の見直しがある場合は、そのための別紙案を提出する。	論文の5割を完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文を「完成」に近づけておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第5回	提出論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の6割以上、完成させておくこと(90分以上)	問題点はクリアにしておくこと。論文を「完成」しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第6回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の7割以上、完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文執筆を進めておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第7回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の8割以上、完成させておくこと(3時間以上)	副指導教員の研究指導を受けておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第8回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の8割以上、完成させておくこと(3時間以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第9回	論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。	調査研究部分は、明瞭に示せるように図表化しておくこと(90分以上)	指摘された部分を修正し、論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第10回	論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。	論文の9割以上は完成させておくこと(90分以上)	構成・引用部分を見直し、論文を完成しておくこと。
担当教員	魯 諍		
第11回	公開発表会のための原稿作成およびその書き方について指導する。あわせて個々に論文指導を受ける。	引用文献も含めて論文を完成させておくこと(90分以上)	論文の9割は見直しがおわっているようにする(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第12回	公開発表原稿の内容・構成について話し合う。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第13回	公開発表原稿の内容・構成について話し合う。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第14回	発表会の予行演習を行う。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第15回	発表会の予行演習を行う。	前回の予行演習で指導を受けた部分を修正すること(90分以上)	論文発表用のハンドアウトを作成しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第16回	発表会で指摘されたことについてどこまで修正できたかを発表する。	発表会で指摘された部分を再確認し、修正すること(90分以上)	指導を受けた部分を修正すること(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第17回	修正された論文の内容について質疑応答。	指摘された部分を修正すること(90分以上)	指導を受けた部分を修正すること(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第18回	修士論文の仕上げについて報告する。	指導を受けた部分を修正すること(90分以上)	指導を受けた部分を修正すること(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第19回	修士論文の内容を確認する。	指導を受けた部分を修正すること(90分以上)	指導を受けた部分を修正し、修士論文の内容を再確認すること(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第20回	各自が十分見直した上での論文を提出する。	論文を完成させ、目次等体裁の確認して提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第21回	修正・追加が必要な部分の指導を受ける。	完成論文を提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は丁寧に加筆しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		

第22回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。 各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
第23回	最終的なチェックを受けた論文を提出し、口頭試験に向けての概要作成のチェックを受ける。	論文提出後にも指導があるので、完璧な論文になるよう改善しておくこと(90分以上)	論文口頭発表のための準備をしておくこと(90分以上)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%
その他	0	
教科書		
論文書式は研究テーマ領域の学会書式にならう。		
参考文献		
研究テーマに関する書籍や論文を適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		

週2回程度の授業以外にも論文指導を行うので、どんどん論文作成を進め、研究の進捗状況が報告できるようにすること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		異文化コミュニケーション研究 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
この授業は、言語・文化に関する多角的な視点を身に付け、言語文化に関する総合力を備え(知識・技能)、国内外のさまざまなコミュニケーション問題に関心を持ち、その課題解決を探究しようとする姿勢(関心・意欲・態度)を促進するための授業である。したがって、受講者は、「異文化コミュニケーション研究 I」とともに、主体的に研究テーマに向かって自律的に研究していくための基礎科目となる。							
授業の概要							
この授業は異文化間のコミュニケーションにおける代表的な理論を、講義と受講生の研究発表を中心に検証していく。異文化間におけるコミュニケーションギャップとパーセプションギャップの理論を、先行研究論文の精読をととして、理論の検証をディスカッションしていく。							
到達目標							

1. 異文化コミュニケーションの代表的な理論を具体例をあげて説明できる。
2. 先行研究文献を鵜呑みせず、に懐疑的／批判的に精読し、疑問点をすぐに探求しようとする研究姿勢になる。
3. 異なった価値観を受入れる寛容さを意識化できる。

授業の方法

授業の前半は、異文化コミュニケーションの理論の確認と、受講者の異文化体験事例から演繹的に描写する手法(DIE法など)で分析していく。
授業の後半は文献を批判的に読み、ディスカッションし、各自の理解をプレゼンしていく。

ICT活用

授業時に使用する文献資料等はGoogle Classroomで配信し、受講生はここに課題を提出する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題返却は次回の授業で手渡しするか、Google Classroomで返却する。すべての課題には評価コメントや参考資料案内等を記してから返却する。また、授業内に手渡しで返却する場合は、コメント記載だけでなく、クラスで内で口頭でもフィードバックし、よいところを共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション コミュニケーションのしくみ 異文化コミュニケーションとは	「文化」の定義を5以上、「コミュニケーション」の定義を10以上、「異文化コミュニケーション」の定義を5つ以上調べておくこと。(90分)	「文化」「コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」の各定義の一つはテキストを見ないで言えるようにする。(90分)
担当教員			
第2回	異文化コミュニケーションスキルとは ミスコミュニケーションの回避と自己開示	自身の異文化体験を振り返り、ミスコミュニケーションをDIE法で分析しておく(90分)	コミュニケーション能力に必要な資源をまとめておく。(90分)
担当教員			
第3回	個人レベルの異文化接触と適応 統合的適応と第三の文化	異文化接触の文献資料をよく読んでおく。(90分)	先行研究論文から専門用語の各定義をまとめておく。(90分)
担当教員			

第4回	異文化コミュニケーションの研究 量的研究と質的研究	エスノグラフィーにおける参与観察例をサイトで読んでおくこと。(120分)	指定会話をレトリック分析手法によるスピーチ分析でやる。(90分)
担当教員			
第5回	価値観を測定する手法 ホフステッド「国民文化の次元」と権力格差調査から	権力格差の大きい社会の特徴を発表できるように準備する。(120分)	権力格差の大小による社会の基本的違いをまとめる。(120分)
担当教員			
第6回	集団間コミュニケーションと対人コミュニケーション 個人主義的傾向と集団主義的傾向文化	集団主義的傾向の強い文化の価値観について調べて説明できるようにしておく。(90分)	個人主義的傾向の価値観の特徴をまとめる。(120分)
担当教員			

第7回	ジェンダーと性別役割 男らしさ・女らしさ文化を考える	世界のジェンダー指数を調べておく。(20分)	ジェンダー指標からみた日本の将来展望をレポートし、ディスカッションペーパーにする。(160分)
担当教員			
第8回	不確実性の回避 不確実性の回避指標と個人主義指標	不確実性の回避の強い社会の特徴を調べ、プレゼンテーション準備をしておく。(160分)	ホフステードの不確実性の回避の批判点の追加修正をしておく。(20分)
担当教員			
第9回	短期志向の社会と長期志向の社会 ビジネス思考様式の差異とその価値観をディスカッションする	世界価値観調査のデータをよく読んで、ディスカッションペーパーを作成しておく。(180分)	長期志向指標の値について説明できるようにしておく。(30分)
担当教員			

第10回	放縦度の高い社会と抑制の強い社会 職場における放縦ー抑制	世界の言論の自由度を調査し、 プレゼンできるように準備する。(120分)	ユーロバロメーターのデータを 読み「言論の自由」度は、どうと らえられているかをレポートする。 (60分)
担当教員			
第11回	組織文化と国民文化 組織文化を管理する手法	指定する職業文化についてプレ ゼンテーション準備。(120分)	グローバル企業から1社選び、そ の組織文化についてレポートす る。(120分)
担当教員			
第12回	自民族中心主義と文化相対主義 自集団と他集団に対するステレオタイプ	言語とユーモアに関する資料を よく読んでおく。(30分)	自国の移民・難民の動向からデ ィスカッションペーパーを作成す る。(150分)
担当教員			

第13回	多国籍企業における態度の形成法 国際競争上の文化的側面	多国籍ビジネス1社を選び、その 企業戦略特徴をプレゼンできる ようにしておく。(120分)	国際マーケティング、広告、消 費者行動についてまとめておく。 (60分)
担当教員			
第14回	組織文化と家族観 日本の伝統的家族観とは	今日的日本文化の特徴につい てプレゼンテーション準備をする。 (120分)	日本文化の伝統的価値化の変 容をまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 多文化共生を目指す社会・組織・地域の問題点	「文化の進化」「ステレオタイプ」 等の配布資料を再度読み、問 題点をディスカッションペーパー にしておく。(120分)	日本の多文化共生施策と現状 をレポートする。(150分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼンテーション50%、ディスカッションペーパー(レポート含む)50%
その他	0	
教科書		
プリントを配布する。		
参考文献		

『多文化世界 原書第3版』G.ホフステード・G.J.ホフステード・M.ミンコフ、有斐閣。『異文化コミュニケーション・ハンドブック』石井敏・久米昭元・遠山淳ほか編、有斐閣選書。このほか、授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		異文化コミュニケーション研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
この授業は「世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を身につけている。(知識・技能)グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、世界の言語とその背景にある文化や社会の多様性を学びながら、異文化理解への理解を深める科目である。							
到達目標							

世界各地域の文化的特色と多様性について俯瞰することができる。各地域・各国の文化の生成における異文化交流の役割について理解することができる。多様な文化の背景にある根本的な思考様式の成立過程について考察することができる。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。
授業内容に関連するホームページや動画など。動画等の視聴による自主学習支援。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備 (90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	世界の言語、宗教などの文化的な広がり俯瞰する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	交流から生まれる文化:自文化と他文化の関係性から異文化を考える。 日本の文化が世界とのどのような交流によって生成しているか学生に考えさせ、史実に沿って学習しながら、日本の文化に内在する世界のさまざまな文化や価値観への気づきを促す。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	東アジア地域の文化:日本の文化と東アジア地域のつながりについて	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	東南アジア地域の文化:日本とのつながりと歴史の多層性と文化的多様性について 映像資料を用いて、音楽や芸術などの日本との類似点について、中国も含めた大きな文化交流の視点から考えさせる。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	南アジア地域の文化:日本とのつながりと多言語主義について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	西アジア地域の文化:ペルシアとイスラームの思想と文化について 担当教員が実際に中東に行った時の体験談や撮影した写真から、学生のイメージと実際の現地の実態のギャップを考察させ、世界の文化の多様性や奥深さへの気づきへと導く。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	西ヨーロッパ地域の文化:古代ギリシア・ローマとルネサンス以降の文化について ルネサンスや宗教改革が、イスラームやモンゴルなどの外部世界との交流によってもたらされていることを、具体的な史実に沿って学習し、ヨーロッパ文化にとっての異文化の意味を考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	イギリスの文化:英語発祥の地の歴史と文化について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	コモンウェルス文化:英連邦の文化について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	アメリカの文化(1)超大国の歴史と文化について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	アメリカの文化(2)現代社会の文化と表現について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	グローバル空間での新しい文化の生成:IT時代のコミュニケーション文化について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	これまでの振り返りと、各自の考えをまとめる小論文の作成	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	小論文の講評とグローバル化時代の文化へのアプローチ	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度と積極性20% 授業課題で提出するレポート50% 小論文30%
その他	0	なし
教科書		
特になし。		
参考文献		

各授業内容と関連する参考文献や資料を適宜指示または配布。

履修条件・留意事項等

異なる複数の文化の相違点に関心を持つ学生の参加を歓迎する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		国際関係論特別研究 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができるようにするための科目である。そのために、特に国際関係の専門分野に関する知識および技能を身につけるための科目である。 「国際関係論特別研究II」と関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、世界の理解と分析の基礎となる国際関係の諸理論と問題領域を学びながら、国際関係論の基本的な分析枠組みと言語の習得を目指し、国際関係分析の理論的枠組みの骨格をつかむことを狙いとしている。まず、国際関係論の主要理論である現実主義・自由主義や、それらに批判的な見方を紹介し、諸理論の視点から現代世界の諸問題をどのように理解することができるのか、人類が抱える具体的な諸問題を安全保障、経済、国際協力、資本主義などのテーマで具体的に検討していく。							
到達目標							

国際関係論の世界認識では、アクター(行為主体)間の異なる問題領域での多様な関係性の変化への理解が求められる。この授業では、学生が、安全保障、外交、開発、環境などの具体的な分野における、国家・国際機関・NGO・多国籍企業そして先進国市民社会の相互関係、また各アクターの役割の変化などを学習することで、刻々と変化する国際情勢を自分の力で考える、認識枠組みと分析方法の基礎を獲得することを到達目標とする。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。
する国家や国際機関、NGOなどのホームページ、動画等。動画等の視聴による自主学習支援。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	・導入～「世界とは何か、世界をどう見るのか？」 国際関係論の学問的使命とは、「世界」とは何か、それをどのように認識する(べきな)のか、という認識の枠組みを提供することである。グローバル化のプロセスを、どのように読み解けばいいのか、国際関係論の「理論」はその手がかりを提供する。各学生は自分の関心のある分野や問題についてプレゼンする。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備(90分) 配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	＜第1部 理論＞ ・理想主義 Idealism～戦間期と国際連盟の挫折 第1次世界大戦の反省から、世界平和は人類の宿願となり、国際連盟のような制度、規範などが整備されたが、人類は再び戦争へと突き進む。E・H・カーなど戦間期の思想をてがかりに、国際制度主義や自由主義などに影響した、理想主義の射程と限界を具体的に考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・現実主義 Realism～第2次世界大戦の痛みと記憶 国際関係論の古典的主要理論の1つで、現在も米国など大国の外交の思考様式に隠然とした影響力を持つ現実主義。Realismの射程は、主に米国で展開する。パワーの概念という国際関係論にとって主要な命題の1つをめぐって、モーゲンソーらの論考を中心に検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	・自由主義 Liberalism～多元化・経済化する世界 戦後世界が安定し、国際貿易が増大する中で、多国籍企業や国際機関などのアクターの台頭と、経済・市場分野の重要性の「政治化」は、現実主義より経済化した認識を必要とする。相互依存やトランスナショナリズムなど、自由主義の系譜をコヘインらの認識から考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	・トランスナショナリズム Transnationalism～越境する現代 トランスナショナリズムは、越境する政治・経済・文化・市民・運動などを見るグローバル化の「見立て」として中心的な認識枠組みを提供する。現象と理論の両方からグローバル化を考える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・グローバリズム Globalism～「下から見た世界」の構造 現実主義と自由主義の視点が、力を持った「上からの視座」であるとする、マルクス主義国際関係理論は、開発や経済的支配について「下からの視座」である南北格差の問題意識を強調する。従属論、帝国主義論などのグローバリズムの理論群を、市場と資本主義の観点から整理する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	・批判理論とその周辺 Critical Theory グローバリズムの系譜による分析が「経済主義」であるのに対して、批判理論やポスト構造主義以降の議論、特に社会構成主義やネオ・グラムシ国際関係論は、人々が持つ「概念」「常識」などの力が支配、およびその支配への申し立てに果たす役割を強調する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	＜第2部 問題領域～現実の中で理論を考える＞ ・安全保障と外交 Security and Diplomacy 現実主義から見る安全保障は軍事のことであり、自由主義の射程はそこに経済を加える。いずれも国家の安全保障を重視するのに対し、批判的な諸理論は個人や「人間の安全保障」を唱える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・環境問題 Environmental Issue 環境問題や環境汚染には国境がない。二酸化炭素の排出による、オゾン層の破壊や地球温暖化や北極海の氷の現象は、地球規模の気象メカニズムを通じて全世界に深刻な打撃を与える。知的共同体やNGO・国際機関の役割など環境問題の多面性を考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	・IT技術とコミュニケーション革命 IT Revolution of Communication グローバル化の特徴として情報技術の飛躍的進歩による、世界のシンクロ化が挙げられる。米国の軍事技術から出発したインターネットは、国際NGOのようにこれまで国境で区切られていた市民とその運動をつなぎ、同時に、テロリストの広がりも助けていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	・グローバル市場 Global Market 情報化によって最も恩恵を受けた領域は経済、特に金融を中心としたグローバルな市場である。国家や社会は相当程度市場化され、グローバル市場を経由して瞬時に連結する。現代のガバナンスのメカニズムにおいて、台頭する経済権力や権威に着目する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・南北格差と開発 Division and Development 開発援助の分野ほど、多様なアクターが複雑に絡み合う問題領域もないかもしれない。先進国・途上国・国連・NGO・多国籍企業…異なる利害と立場が交錯する開発の領域を事例に、現代の国際関係のダイナミズムを検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	・文化の力 Power of Cultures とかく軍事と経済のいわゆるハードな問題に偏りがちな国際関係論にあつて、文化の問題は比較的新しく魅力的で、同時に悩ましい領域である。アイデンティティーに深く関わりを持つ、言語、民族、宗教などのネットワークは、理論が考えるよりも大きな世界変化の動因となっていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	＜第3部 あなたの国際関係論＞ ・小論文による理解度と応用力の確認 国際関係論において、どの理論が一番大事であるとか、どの問題領域が最重要である、ということはありません。何をどう選び、あるいは組み合わせ、世界のどこに焦点を合わせ、どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文で何を学んだか、考えたのか書く。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～「わたしたちの国際関係論と世界」 学生の皆さんから出された、いろいろな形の国際関係論から、私たちが世界をどう見ているのか、そして世界とのつながりをどのように感じているのか、一緒に考え議論しながら授業のまとめを行う。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%
その他	0	なし
教科書		
特になし。		
参考文献		

授業テーマに関連する文献や資料を、各授業で適宜指示。

Kauppi, Mark V. and Viotti, Paul R. (2023) International Relations Theory (7th ed), Rowman & Littlefield Pub.

(邦訳: (ウェッセルズ、石井 共訳)『国際関係論: 現実主義・多元主義・グローバリズム』彩流社)

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		国際関係論特別研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができるようにするための科目である。そのために、特に政治経済の専門分野に関する知識および技能を身につけるための科目である。 「国際関係論特別研究I」と関連する科目である。							

学生は、これまで学んだ国際関係論の理論的枠組みを復習するとともに、経済化・市場化するグローバル世界における多様な権力とその構造を認識し、国際政治経済の現象を自ら分析し理解することができるようになることを到達目標とする。

授業の方法

講義形式で行う。適宜学生に対してレポートなどの課題を課す。

ICT活用

インターネット上の資料や映像を適宜参照するとともに、Google Classroomを用いた双方向的コミュニケーションを保つ。

実務経験のある教員の教育内容

講義期間中に課すレポートや課題についてのコメントや指導を行うとともに、Google Classroomを通じ適宜補充する。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中に課す小課題への講評及び期末課題への評価と講評を行うとともに、Google Classroomを通じ適宜補充する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	“オリエンテーション 国家vs市場？経済化する世界と市場権力の国際政治”	シラバスを読み、自らの関心を明確にし、疑問点などがあれば整理しておくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第2回	国際政治の理論(1) 現実主義、安全保障、国家主義	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第3回	国政政治の理論(2) 自由主義、貿易の拡大、相互依存	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第4回	国際政治の理論(3) マルクス主義、グローバリズム、資本主義の行方	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第5回	帝国主義と重商主義 グローバル化における経済的ナショナリズムの出現	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第6回	国家と市場 グローバル化、経済化する世界における新しい権力と権威	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第7回	世界経済における権力の構造(1) 安全保障構造	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第8回	世界経済における権力の構造(2) 生産構造	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第9回	世界経済における権力の構造(3) 金融構造	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第10回	世界経済における権力の構造(4) 知識構造	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第11回	二次的権力構造(1) 空海輸送、貿易 一帯一路、中国の影響、欧州の思惑	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第12回	二次的権力構造(2) エネルギー、環境 「クリーン」な世界の行方と実態	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第13回	二次的権力構造(3) 国際福祉または開発 国際金融機関の変遷と援助	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第14回	小論文試験 これまでの学習内容の理解度と、それをベースとして自律的に思考し応用できるのかを問う。	これまでの授業内容や課題内容の復習(90分)	小論文の設題に対する自分の回答の吟味。関連する不足知識の復習(90分)
担当教員			
第15回	まとめ (1)小論文についての講評 (2)小論文を踏まえてのこれまでの授業の振り返りとまとめ。現代の諸問題への国際政治経済学のアプローチ。	これまでの授業内容の振り返りと自分の小論文の自己評価の作成(90分)	授業内容を参考に、これまでの授業全体で学んだことをノートにまとめる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行なわない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性20%、レポート・課題の提出状況50%、小論文30%
その他	0	
教科書		
特になし。		
参考文献		

各回の授業内容について関連する文献や資料を適宜指示または配布。

履修条件・留意事項等

世界史や現代史の基本的な知識を要する科目である。近現代の経済、貿易、金融などにも関心・知識を持っていることが望ましい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション 共通科目B					
科目名		地域社会特別研究 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
「各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えている」および「言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまなニーズに応えることができる」ことを目的とする科目である。他の言語系科目のほか、地域系科目と関連する。							

1. 世界の主要な言語について概略的に述べることができる。
2. 日本国内の主要な言語・方言について概略的に述べることができる。
3. 世界の言語の語族や語派について概略的に述べることができる。
4. 各「言語行動」の違いを知り、多様な行動様式を比較できる。

授業の方法

板書と配布印刷物を中心に、講義形式ですすめる。受講者には適宜発表をしてもらう。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

それぞれの発表について、ハンドアウトおよび発表内容の全てについて細かくコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	イントロダクション 歴史言語学について	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第2回	印欧諸語の分布と特徴について:イタリック語派 具体言語をとりあげて概説(ラテン語、イタリア語、フランス語など)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第3回	印欧諸語の分布と特徴について:ゲルマン語派 具体言語をとりあげて概説(英語、ドイツ語など)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			

第4回	印欧諸語の分布と特徴について:その他 具体言語をとりあげて概説(ロシア語、古典ギリシャ語など)	シラバスを確認し、当該項目に ついて調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指 示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第5回	アフリカの諸言語の分布と特徴について 具体言語をとりあげて概説(スワヒリ語など)	シラバスを確認し、当該項目に ついて調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指 示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第6回	受講者による発表、および発展学習	発表準備をしっかりと行う(120分 以上)	授業内容を復習し、授業での指 示課題に取り組む(120分)
担当教員			

第7回	アジアの言語の分布と特徴について:アフロ・アジア諸語 具体言語をとりあげて概説(アラビア語など)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第8回	アジアの言語の分布と特徴について:孤立語系の言語 具体言語をとりあげて概説(中国語、中国の諸言語、ベトナム語など)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第9回	アジアの言語の分布と特徴について:アルタイ諸語 具体言語をとりあげて概説(モンゴル語など)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			

第10回	アジアの言語の分布と特徴について:韓国語・日本語	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第11回	受講者による発表、および発展学習	発表準備をしっかりと行う(120分以上)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第12回	日本語の方言について(概説)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			

第13回	日本語の方言について(北海道方言・関西方言)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第14回	もののいいかたの方言学(1) 小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』序章・第1章部分	シラバスを確認し、該当ページを読了・理解しておく(120分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
第15回	もののいいかたの方言学(2) 小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』第2章・第3章部分	シラバスを確認し、該当ページを読了・理解しておく(120分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表の形式・内容、および通常の授業参加度による。
その他	0	
教科書		
授業時に適宜指示、それ以外はプリントを配布する。		
参考文献		

授業内で適宜指示する。

履修条件・留意事項等

事前・事後学習をしっかりと行うこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 英語・英米文化コミュニケーション領域					
科目名		英語学特殊研究				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーとの関連で言えば、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えているを達成する科目である。

授業の概要

われわれは日常生活の中でさまざまな現象に取り囲まれているが、一見無秩序に思われる現象にもその背後には秩序、規則性が潜んでいる。ことばに目を転じれば、その背後にもやはり規則性が潜んでいるのである。本授業では、英語という言語に内在している規則性を発見し、明らかにしていくことを目指す。とくに、ことばを科学的に研究する学問である言語学、その一部門である英語学、さらにその中核をなす統語部門に関する理解を深めていく。

到達目標

- ・英語のしくみを深く理解し説明できる。
- ・文献に書かれていることを正しく述べることができる。
- ・論理的にものごとを論じることができる。

授業の方法

はじめは板書を使った講義形式、適宜輪読・発表形式に移行する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業内での発表、提出物にはコメントをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する。 生成文法の研究プログラム	受講動機について尋ねられるので、準備しておく。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第2回	句構造(1) 構造的多義性 規則の定式化	次回進む予定のところを読む。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第3回	句構造(2) 句構造の機能的性格	次回進む予定のところを読む。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第4回	句構造と移動(1) 英語疑問文における主語と助動詞の語順転換	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第5回	句構造と移動(2) 文法関係と構造関係 句構造の変形	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第6回	英語助動詞システムにおける主要部移動	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第7回	動詞句(1) 英語の場合	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第8回	動詞句(2) 日本語の場合	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第9回	名詞句の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第10回	動詞句の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第11回	Xバー理論	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第12回	Xバー理論と文の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第13回	否定極性と文構造(1) 否定極性	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第14回	否定極性と文構造(2) c-command条件	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第15回	主語の位置と否定極性	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(40%)、課題提出(40%)、質疑応答(20%)
その他	0	
教科書		
『生成文法』渡辺明 東京大学出版会		
参考文献		

授業内に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

予習・復習をしっかりとすること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 英語・英米文化コミュニケーション領域					
科目名		英米言語文化特殊研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目で、イギリスの社会や文化についての専門科目である。

授業の概要

日本の近代化にも大きな影響を与え、EUからの離脱で注目されるイギリス。英語が誕生した国でもあり、かつて世界の半分以上を支配していたと言われたイギリスの歴史や文化は、日本のみならず世界に大きな影響を与えている。本講義では、イギリスの社会と文化の伝統の持つ豊かさと同時に、多くの分野でいまだに世界の新しいトレンドを作り出している現代イギリスの現状について、その本質を理解することを目的とする。ヨーロッパとの関係性の理解も重要となってくる。

到達目標

イギリスの地理、歴史、政治構造、ポップカルチャー、社会的安全や特定の宗教的信仰の影響などについて、知識や考え方を身につけることができる。イギリスの文化の背景知識を習得することができる。現代イギリス社会の現象を多角的に分析することができる。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
いくつかのテーマについて学生のプレゼンテーションを行う。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。
プレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	イントロダクション シラバスの説明と授業内容の紹介。 各学生のイギリスのイメージと関心事についての簡単なプレゼン。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備 (90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	イギリスとはどんな国か イギリス(連合王国)の重要な特徴について概観し、学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	イギリスの社会構成 イギリスの社会構成について、人口、社会的・民族的背景、政治的信条、信仰する宗教とそれらの分布について学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	イギリスの食文化 イギリスの特徴的な食べ物や飲み物について概観する。また、グローバル化するイギリスにおいて、近年人気の食べ物についても学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	イギリスの地方・名所 イギリスのいくつかも地方や名所について、その意義について学ぶ。事例としてストーンヘンジの歴史的、宗教的、社会的な意義について解説する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	イギリスの治安 現代のイギリスが直面する治安の課題と諜報機関について学習する。後半では、イギリスの諜報機関のポップカルチャーへの影響を分析する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	学生の間中間プレゼンテーション 各学生は、イギリス文化に関連するトピックについてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備。中間テストへの準備。(90分)	プレゼンテーションへのフィードバックを振り返り復習する。中間テストへの準備。(90分)
担当教員			
第8回	中間テストの実施 これまでの内容の復習とまとめを行い、各学生の理解度を確認する。	中間テストへの準備。(90分)	中間テストの振り返りと復習。学習改善の方向性の考察。(90分)
担当教員			
第9回	ウエストミンスター大聖堂 この講義では、ウエストミンスター大聖堂とその歴史、そこに関わる人物たちに焦点を当てて学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	イギリスのポップカルチャー ポップカルチャーを代表する人物たちやコンテンツについて考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	イギリスの現代史 20世紀と21世紀におけるイギリスの重要な出来事について学習する。特に、第2次世界大戦、フォークランド紛争、アフガニスタン紛争、ブレグジット、コロナ禍について。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	イギリスの観光産業(1) イギリスの観光について、レイク・ディストリクトやウィリアム・シェイクスピアなどを事例に考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	イギリスの観光産業(2) 前回に引き続きイギリスの観光産業について学習する。この回では、スコットランドのウエスト・ハイランド・ウェイなどに焦点を当てる。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	学生の最終プレゼンテーション 各学生は、イギリス文化に関連するトピックについてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備。最終テストの準備を始める。(90分)	プレゼンテーションへのフィードバックを振り返り復習する。最終テストへの準備。(90分)
担当教員			
第15回	最終テストの実施 これまでの内容の復習とまとめを行い、各学生の理解度を確認する。	最終テストに向けて準備する。(90分)	これまでの授業全体と最終テストの内容について振り返り、今後の学習改善の方向性について考察すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加への積極性 20% 中間テスト 40% 期末テスト 40%
その他	0	
教科書		
なし。		
参考文献		

各授業で関連する文献や参考資料を適宜指示または配布。

履修条件・留意事項等

イギリスの社会や文化、歴史にさまざまな形で興味関心を持つ学生を歓迎します。

備考欄

特になし。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 英語・英米文化コミュニケーション領域					
科目名		英語文献翻訳実践演習A				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーとの関連で言えば、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えていることを達成するための科目である。「英語文献翻訳実践演習B」と関連を持つ。							

- ・英語の文献を読んで討論することができる。
- ・理解した内容を直訳から日本語らしい日本語に適用することができる。
- ・日英語そして日英の文化の違いについての比較ができる。

授業の方法

はじめは板書を使った講義形式、適宜輪読・発表形式に移行する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業内での発表、提出物にはコメントをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する。 ACCENTS AND DIALECTS	受講動機について尋ねられるので、準備しておく。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第2回	BEING BILINGUAL	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第3回	THE LANGUAGES OF THE WORLD	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第4回	THE ORIGINS OF SPEECH	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第5回	MODERN WRITING	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第6回	SIGN LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第7回	COMPARING LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第8回	DYING LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第9回	LANGUAGE CHANGE	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第10回	LANGUAGE VARIATION	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第11回	LANGUAGE AT WORK	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第12回	SLANG	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			

第13回	DICTIONARIES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第14回	ETYMOLOGY	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
第15回	PLACE NAMES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(40%)、課題提出(40%)、質疑応答(20%)
その他	0	
教科書		
A Little Book of Language / David Crystal / Yale University Press		
参考文献		

授業内に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

予習・復習をしっかりとすること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中国学特殊研究				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修得し、言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応える能力を身につけるための科目である。							
授業の概要							
この授業は改革・開放以来の中国メディアの変容と実態を考察し、検討する。具体的な事例を取り上げつつ、メディアと政治、経済、社会との相互関係を分析し、問題点について議論する。合わせて日本のメディア事情にも触れ、比較の視座から、メディアが果たす役割を検討し、問題意識を高める。							
到達目標							

改革・開放以来の中国メディアの変容を理解し、現在の中国メディアの実態について説明することができる。中国に関する情報やニュースに触れるときに、複眼で見る力をつけることができる。

授業の方法

この授業は、担当教員の解説、前もって課題とした文献や配布プリントについての受講者による報告、これまでの授業を踏まえての受講者の口頭発表から構成される。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。口頭発表については事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	①オリエンテーション ②中国のメディア事情について説明し、履修者に関心を持つテーマを聞く。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)
担当教員			
第2回	第1セッション(第2～4回)メディアの市場化メディア制度の変容 第2回 中国の大衆紙の急成長とその問題点について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第3回	第3回 メディア融合戦略とメディアの再編について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第1セッションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			

第4回	第4回 プレゼンテーション1 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第5回	第2セッション(第5～8) メディアと政治 第5回 中国のメディア管理体制と変容について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第6回	第6回 報道規制(内容規制)の実態と変容について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第7回	第7回 中国当局はSNSメディアをどう管理しているかを説明する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第2セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第8回	第8回 プレゼンテーション2 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第9回	第3セクション(第9～12回)メディアの役割 第9回 突発事件報道について学ぶ 「SARS報道」と「新型コロナウイルス報道」を比較し、問題点を検討する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第10回	第10回 世論監督(メディアの監視機能) 「焦点訪談」、「新聞調査」などのテレビ番組や、大衆紙の「調査報道」の盛衰について紹介する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第11回	第11回 SNSメディアの急成長とその問題点について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第3セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第12回	第12回 プレゼンテーション3 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第13回	第4セッション 中国の国際報道と対外宣伝 第13回 中国の国際報道に関するメディア政策について説明する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第14回	第14回 中国当局はソフトパワーを高めるために行う「対外宣伝」について説明する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ: 講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20%)、文献の報告及び口頭発表(40%)、期末レポート(40%)
その他	0	
教科書		
プリントを配布または配信する。		
参考文献		

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(出席できない場合、事前に担当教員に連絡すること)。指定する文献には、報告者のみならず参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。

備考欄

無断欠席は必ず減点要素となる。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中日言語文化特別演習 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

本講はディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修得し、言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心をもち、そのニーズに応える能力を身につける」ことを追求する科目である。

授業の概要

近代以降、東アジアの各国において標準語・公用語が続々と「誕生」する。本講義は中国語、日本語をはじめとする漢字圏の言語に焦点を当て、各国の標準語が生まれる歴史的な経緯を総合的に検討し、理解を深める。また、植民地台湾の言語問題や、在日朝鮮人の言語問題、モンゴル語の正書法などの具体的な事例を通して、ことばと国家、アイデンティティ、地域社会との関係を概観し、ことばとは何かについてより本質的な理解を目指す。

到達目標

- ①近代以降、東アジア各国における標準語・公用語が生まれる歴史的経緯が総合的に理解できる。
 ②事例を通して、ことばと国家の関係が説明できる。
 ③特定のトピックについて文献収集、分析、整理ができる。

授業の方法

この授業は、教員の解説、履修者の口頭発表、口頭発表の内容に基づき検討から構成される。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で質問・感想票の記入を実施し、それに対し教員が回答する。また履修者の口頭発表に対し、授業で適宜コメントとアドバイスをを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	ガイダンス	ことばと国家の関係について自分の問題意識を整理する(90分)。	授業のガイダンスを理解し、授業での議論を整理する(90分)。
担当教員			
第2回	村田雄二郎「漢字圏の言語」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第3回	若林正丈「台湾の近現代と二つの「国語」」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第4回	安田敏朗「国語・日本語・帝国」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第5回	平田昌司「しゃべるな 危険:17-20世紀中国の女のことば」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第6回	齋藤希史「漢文の命脈:古典文から今体文」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第7回	伊藤徳也「近代中国における文学言語」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第8回	中島隆博「鬼を打つ: 白話、古文そして歴史」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第9回	岩月純一「近代ベトナムにおける「漢字」の問題」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第10回	生越直樹「朝鮮語と漢字」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第11回	C・ラマール「地域語で書くこと:客家語のケース(1860-1910)」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第12回	都留俊太郎「台湾語 王育徳における大衆と「チャンボン語」」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第13回	包福昇「モンゴル語 中ソのあいだで揺れる正書法」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第14回	呉永鎬「朝鮮語 失われた「私たちの言葉と文字(ウリマルクアル)」を求めて」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ	今学期学習した内容を復習する(90分)。	授業での議論を整理し、レポートを作成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習など) 30% 口頭発表 30% レポート 40%
その他	0	
教科書		
『漢字圏の近代』村田雄二郎ほか編、東京大学出版会、2005年。 『生活綴方で編む「戦後史」』駒込武編、岩波書店、2020年。		
参考文献		

なし。
履修条件・留意事項等 無断欠席は必ず減点要素になる。 指定された文献は、報告者のみならず履修者全員が事前に熟読する。
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中日言語文化特別演習Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	魯 諄						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修得し、言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応える能力を身につける」ことを追求する科目である。前期科目「中国学特殊研究Ⅰ」と関連性を持つ科目である。

授業の概要

この授業は中国メディアの日本に対する報道と中国人の「日本イメージ」の形成との関連性を考察し、検討する。具体的な事例を取り上げつつ、中国メディアによる日本に関する報道の問題点について議論する。合わせて日本メディアによる中国に関する報道にも触れ、比較の視座から、国際ニュース報道におけるメディアの役割を検討し、問題意識を高める。

到達目標

中国メディアの国際報道の問題点について指摘することができる。中国メディアの日本に対する報道の実態について述べることができる。中国人の「日本イメージ」の形成との関連性について説明することができる。

授業の方法

この授業は、担当教員の解説、前もって課題とした文献や配布プリントについての受講者による報告、これまでの授業を踏まえての受講者の口頭発表から構成される。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。口頭発表については事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	①オリエンテーション ②歴史に見る中国人の日本イメージについて学ぶ。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)
担当教員	魯 諍		
第2回	第1セッション(第2～5回)中国メディアの国際ニュース報道の構造 第2回 中国のメディア制度と変容について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第3回	第3回 中国メディアの国際ニュース報道の特性について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第4回	第4回 中国メディアの日本に関する報道の特性について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第1セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員	魯 諍		
第5回	第5回 プレゼンテーション1 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第6回	第2セクション(第6～9) 事例研究(マスメディアの日対日報道) 第6回 歴史問題に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第7回	第7回 領土問題に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第8回	第8回 日本の対中経済協力に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第9回	第9回 テレビが伝えた日本のイメージ 中国の映画やドラマの中の日本人のイメージを考察し、分析する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第2セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員	魯 諍		

第10回	第10回 プレゼンテーション2 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第11回	第3セッション(第11～13回)事例研究(ネットメディアと日本イメージ) 第11回 3・11東日本大震災に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第12回	第12回 新型コロナウイルスが中国・武漢で感染が拡大する中、日本の自治体などが中国を物資支援する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第13回	第13回 動画共有サイトおよびエンターテインメントコンテンツのプラットフォーム「Bilibili動画」を取り上げ、日本に関するコンテンツを分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第3セッションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員	魯 諍		
第14回	第14回 プレゼンテーション3 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員	魯 諍		
第15回	講義のまとめ:講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20%)、文献の報告及び口頭発表(40%)、期末レポート(40%)
その他	0	
教科書		
プリントを配布または配信する。		
参考文献		

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(出席できない場合、事前に担当教員に連絡すること)。指定する文献には、報告者のみならず参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。

備考欄

無断欠席は必ず減点要素になる。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中国語文献翻訳実践演習A				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

本講はディプロマポリシーに掲げている「各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備える」ことを目指す科目である。「中国語文献翻訳実践演習B」と連携している科目である。

授業の概要

本講は前半では母語、国家語など現在において自明と考えられる概念を問い直し、その決して長くない歴史を確認することを通して、ことばとナショナル・アイデンティティの関係について深く検討する。後半では具体的な事例として、第二次世界大戦後の台湾における「国語(戦後の台湾の場合は中国語を指す)」運動に着目し、戦後台湾の言語政策を概観し、いかなる要因が人々の「国語」決定に影響したのかを詳しく考察する。

到達目標

1. 母語、国家語などの基本概念が把握できる。
2. 事例を通して、ことばとナショナル・アイデンティティの関係について総合的かつ高度な知識が説明できる。
3. 第二次世界大戦後の台湾における言語政策の状況が総合的に説明できる。

授業の方法

本講は担当教員の解説、履修者の口頭発表、そしてそれに基づくグループ議論の形式で進める。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の口頭発表後に、問題点や改善点についてアドバイスを出し、重要なポイントについて議論し、理解を深める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	田中克彦『ことばと国家』第1、2章: 母語とは何か。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第2回	田中克彦『ことばと国家』第3、4、5章: 国家語とは何か。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第3回	田中克彦『ことばと国家』第6、7章: 方言とは何か。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第4回	田中克彦『ことばと国家』第8、9章:ピジン語・クレオール語の挑戦。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第5回	菅野敦志『台湾の言語と文字』序章「脱日本化」・「中国化」・「本土化」と戦後台湾の言語・文字政策	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第6回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第1章「光復」と脱植民地化の現実	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第7回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第2章 過渡期における国語と方言	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第8回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第3章 台湾に消えたもうひとつの「国語」運動	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第9回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第4章 台湾における「簡体字論争」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第10回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第5章 中華文化復興運動と言語的一元化	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第11回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第6章 台湾人と「方言」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第12回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第7章 言語問題の政治家へ	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第13回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第8章「本土化」と「母語」教育	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第14回	菅野敦志『台湾の言語と文字』終章 台湾言語政策史像の再構築	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ：中国語とは何か。	今学期学んだ内容をまとめる(90分)。	授業中の議論を整理し、レポートを作成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習) 30% 授業内口頭発表 30% レポート 40%
その他	0	
教科書		
『ことばと国家』田中克彦著、岩波書店、1981年。 『台湾の言語と文字:「国語」・「方言」・「文字改革」』菅野敦志著、勁草書房、2012年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

授業内容に関連する文献を読み、理解を深める。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中国語文献翻訳実践演習B				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

本講はディプロマポリシーに掲げている「各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備える」ことを目指す科目である。「中国語文献翻訳実践演習A」と連携している科目である。

授業の概要

本講は「漢文」に焦点を合わせ、日中の近代文化交流や日本の近代国家形成の過程、台湾や朝鮮半島に対する植民地経営において「漢文」の果たした役割について詳しく検討すると同時に、「漢文」の東アジア各社会における歴史的な役割、共通点、相違点、さらに現代の中国語教育に与える影響を明らかにする。より広い視野で漢字圏の可能性について考察する。

到達目標

1. 近世(安土桃山・江戸時代)から近代(明治時代以降)において「漢文」が東アジアの国際交流、日本の近代国家形成、植民地統治に果たした役割について説明できる。
2. 漢文が現代の中国語教育に与える影響が総合的に理解できる。
3. 特定のトピックに関する資料の収集、分析、要約ができる。

授業の方法

本講は担当教員の解説、履修者の口頭発表、そしてそれに基づくグループ議論の形式で進める。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の口頭発表後に、問題点や改善点についてアドバイスをし、重要なポイントにおいては議論し、理解を深める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	①ガイダンス ②「近代日本と漢文教育」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第2回	町泉寿郎「漢文教育の近世・近代」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第3回	平崎真右「近代日本の教育制度と「漢文」」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第4回	町泉寿郎「二松学舎の歴史から見る近代漢文教育の変遷」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第5回	川邊雄大「漢文教科書に見る咸宜園関係者の漢詩文採録について」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第6回	菊地隆雄「昭和期戦前の漢文環境」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第7回	川邊雄大「外地の「漢文」教科書について:台湾を例として」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第8回	白柳弘幸「台湾総督府発行『漢文教科書』と漢文科設置」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第9回	白柳弘幸「台湾公学校漢文科と本島人教員」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第10回	川邊雄大「戦前期台湾における日本人漢文教師の足蹟」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第11回	朴暎美「韓国における近代的漢学専門高等教育機関と支那哲文学科」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第12回	張三妮・町泉寿郎「日韓併合前後の漢文教育」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第13回	朴暎美「一九三〇年<『新編 高等朝鮮語及漢文読本』の改編要望件>について」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第14回	張三妮「伊沢修二の清末中国教育に関する言説と出版活動」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ	今学期学んだ内容をまとめる(90分)。	授業中の議論を整理し、レポートを作成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習など) 30% 口頭発表 30% レポート 40%
その他	0	
教科書		
『近代東アジア漢文教育の研究Ⅰ 日本統治下の台湾・朝鮮と漢文教育』町泉寿郎編、戎光祥出版、2023年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

授業内容に関連する文献を読み、理解を深める。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本語学特殊研究 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めて、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。「日本語学特殊研究Ⅱ」「日本言語文化特殊演習」および他の語学系科目と関連をもつ。具体的には、本科目で言語学の基礎を学び、「日本語学特殊研究Ⅱ」で日本語学の基礎を学ぶ。

授業の概要

日本語の特質を知るためには、その理論的背景を元に、実際の使用を観察するとともに、他言語との比較をおこなうことが重要である。本授業では窪田晴夫[編著] 2019『よくわかる言語学』(ミネルヴァ書房)を読みながら日本語学の基本事項を講義するとともに、それを元に実際の使用および他言語との比較を試みる。

到達目標

1. 言語学についてひととおりの基本事項をおさえるとともに、観察と比較を通じてそれらを有機的に関連づけることができる。
2. 教科書等に出てくる術語について主体的に調べ、説明することができる。
3. 教科書等を批判的に読み、曖昧な記述を指摘し、適切な反例を挙げることができる。

授業の方法

事前にしっかりと教科書を読み込み、不明部分についてはそれぞれがしっかりと事前学習して来ることを前提にした授業を行う。板書・教科書が中心であるが、常に教員から受講生に問いかけ、受講生がそれに答えるという問題解決学習・調査学習形式をとる。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題発表をもとに授業を組み立てるため、授業中にコメントや評価、学修に際しての注意点の指導等を細かく行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	言語学の概要 教科書序章「言語学とは何か」	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
第2回	音声・音韻(1) 教科書 1「音声・音韻」pp14-29:母音と子音、母音の有標性、音声素性と母音融合、子音の発音、子音の有標性、音素と異音、連濁とライマンの法則、連濁と形態音素交替	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
第3回	音声・音韻(2) 教科書 1「音声・音韻」pp30-45:モーラの役割、音節構造(日本語・英語)、語の韻律構造、アクセントの種類、アクセントの規則、音韻構造と統語・意味構造、リズム	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			

第4回	形態論(1) 教科書 2「形態論・語形成」pp46-55: 複雑語のまとまり、複雑語の構造、語形成の生産性と心内辞書、規則活用と不規則活用、新しい動詞の作られ方	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
第5回	形態論(2) 教科書 2「形態論・語形成」pp56-63: 複合名詞の意味、動詞由来複合語、派生名詞の多義、語のまとまりを超える語形成	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
第6回	生成文法(1) 教科書 4「生成文法」pp86-91: 統語論とは何か、文の構造、文の構造と「移動」	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			

第7回	生成文法(2) 教科書 4「生成文法」pp92-97:移動の制約、繰り上げ構文、繰り上げ構文とコントロール構文	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
第8回	認知言語学・日本語文法(1) 教科書 5「認知言語学・日本語文法」pp98-105:全称量化と存在量化、世界のデフォルト状態、事物のカテゴリ化、文法化	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
第9回	認知言語学・日本語文法(2) 教科書 5「認知言語学・日本語文法」pp106-113:デキゴト表現、きもちの文法、体験と知識、並列標識の偏った現れ	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			

第10回	歴史言語学(1) 教科書 7「歴史言語学」pp134-137:動詞の活用、動詞の複合	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
第11回	歴史言語学(2) 教科書 7「歴史言語学」pp138-143:主格助詞「が」、使役文、丁寧語	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
第12回	方言・社会言語学 教科書 8「方言・社会言語学」pp144-153:地域方言、社会方言、言語接触、スタイル、インターアクション	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			

第13回	心理言語学 教科書 9「心理言語学」pp154-169:音素の特定・モーラの切り出し、多義性とガーデンパス、文法の個別性と文処理装置の普遍性、文処理で使われる情報いろいろ、音のきまりの獲得、語の獲得、文法の獲得、第二言語の獲得	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
第14回	言語類型論(1) 教科書 11「言語類型論」pp182-187:語族・類型・文字、言語普遍性、語順類型論	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
第15回	言語類型論(2) 教科書 11「言語類型論」pp188-191:アラインメント、意味類型論	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(50%)、質疑応答(30%)、課題提出(20%)、いずれも授業の理解度を含む。
その他	0	
教科書		
よくわかる言語学／窪菌晴夫[編著]／ミネルヴァ書房		
参考文献		

明解言語学辞典／斎藤純男ほか[編]／三省堂

履修条件・留意事項等

初回から教科書を使用しますので、受講予定者は早めに購入して事前に目を通しておいってください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本語学特殊研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

研究科本専攻の教育課程方針に基づき、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、かつ各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。「日本語学特殊研究Ⅰ」および各語学系科目と関連をもつ。

授業の概要

日本語学の文構造の特色である「階層構造」について理解を深めるため、衣畑智秀編 2019『基礎日本語学』(ひつじ書房)を読み進める。講義形式で内容について簡単な講義をしたのち、そこで扱ったキーワード等について受講者はさらに深く調査し、発表を行う。また関連する論文等を紹介し、適宜授業内で解説する。

到達目標

1. 日本語学の基礎的事項について理解し、説明・応用できる。
2. 文献を批判的に読み、記述が曖昧であるところを指摘し、また記述内容に対する類例および反例を指摘することができる。
3. 日本語教師となる場合に受ける可能性のある語学的質問(歴史を含む)に適切に対処・説明できる。

授業の方法

おもに板書を中心に、講義形式、および発表方式で授業を行う。
また適宜理解度確認の質疑応答等を設け、受講者の理解を確認する。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業での担当箇所発表時に適宜、口頭にて指導を行う。また授業内レポート等の課題については、詳細にコメントをつけて直接返却する(口頭コメントを含む)。さらに適宜確認テストを行い、理解度を確認する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	イントロダクション 教科書の説明、および簡単なガイダンスを行う。	各受講者の受講動機と研究テーマを尋ねますので準備しておいてください(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第2回	教科書第1章「現代日本語の音声と音韻」その1 現代日本語の音声について、音声学を中心に学び、用語等を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第3回	教科書第1章「現代日本語の音声と音韻」その2 前回の授業と対比し、音素やアクセント等について理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			

第4回	教科書第2章「音韻の歴史変化」 日本語の音韻の歴史変化について、基礎知識とその流れを理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第5回	教科書第3章「現代日本語の文法」 現代日本語の文法について、形態論・統語論・意味論・語用論という観点から概略を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第6回	教科書第4章「文法の歴史変化」 前回学んだ内容について、その歴史的変遷を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			

第7回	教科書第5章「現代日本語の語彙」 形態論等と関連させながら、おもに日本語の語彙について理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第8回	教科書第6章「語と語彙の歴史的变化」 前回見た語彙について、その歴史的な変遷をみるとともに、その位置づけを行う。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第9回	予備日(これまでの復習を行う)	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			

第10回	教科書第7章「文章論と談話分析」 文章と談話について、教科書の内容を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第11回	教科書第8章「文体差と文体史」 文体差と文体史について、教科書に書かれている内容を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第12回	教科書第9章「言葉の変異と諸方言」 変異と方言について、教科書の内容を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			

第13回	教科書第10章「コーパスと統計」 コーパスと統計について、教科書の内容を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第14回	教科書第11章「理論的研究とは？」 教科書の実例をもとに、理論的研究の方法について理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
第15回	教科書第12章「日本語学史」 教科書の内容について学び、追加資料等により学びを深める。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(50%)、授業内レポート等の課題(40%)、質疑応答(10%)
その他	0	
教科書		
基礎日本語学／衣畑智秀編／ひつじ書房		
参考文献		

明解言語学辞典／斎藤純男・田口善久・西村義樹編／三省堂
 明解日本語学辞典／森山卓郎・渋谷勝己編／三省堂

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本言語文化特別研究				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

研究科本専攻の教育課程方針に基づき、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、また言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまなニーズに応えることができるようになるための科目である。この科目は「日本語学特殊研究Ⅰ・Ⅱ」を発展させた演習科目であると同時に、他の言語関係の諸科目と関連をもつ。

授業の概要

この講義では言語一般の特徴である「構造依存性」について学ぶ。そのために生成文法入門書であるHaegeman2006を講読し、文の階層構造とその意義について学ぶ。ここでは英語について学ぶが、仮説演繹的に論証する論証法になじむことも目的とする。また後半は言語学的観点からの日本語を取り上げ、受講者同士で論じる。授業では日本語の「使い分け」用法のレベルではなく、より原理的な視点からの考察を予定している。

到達目標

1. 言語の構造依存性について理解し、説明できる。
2. 主張に対する実証的な論証を理解し、自ら構成できる。
3. 英語および日本語について、文法範疇とその具体的なあらわれ、および階層構造性を理解し、他の例に応用できる。

授業の方法

教科書を中心に、板書(必要に応じてパワーポイント)により授業を進める。
はじめは講義形式で行うが、基本的には受講者の輪読・発表方式(演習方式)で進める。
適宜理解度テストを実施し、理解度を確認する。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

適宜行う確認小テストはその場で採点して返却し、理解が不十分であると思われる箇所は説明する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション 言語の構造依存性について:言語の有限性と無限性を学修する。はじめて聞いた文でも意味がわかるのはなぜかということについて、簡単に説明する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第2回	Haegeman2006: Ch.1.1「言語の科学的研究」について 言語学で扱われる論証方法について、「科学的」というタイトルの名の下に論証方法を学修する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第3回	Haegeman2006: Ch.1.2-3「言語データと一般化」について 言語学で扱われるデータとその一般化について、特に第2節の英語データの一般化について丁寧に学修する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			

第4回	Haegeman2006: Ch.1 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第5回	Haegeman2006: Ch.2.1「文・動詞句の構造」について(その1) 動詞句の構造について示唆する実証的なデータを挙げ、構造を決定していく。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第6回	Haegeman2006: Ch.2.2「文・動詞句の構造」について(その2) 文・動詞句の構造についての理論的な要請について考察を行う。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			

第7回	Haegeman2006: Ch.2.3「指定部」について 名詞句の構造を併せて考察し、動詞句および文の構造を再考する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第8回	Haegeman2006: Ch.2 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第9回	Haegeman2006: Ch.3.1「助動詞のない文の構造」について 助動詞のない文の構造について、前章までの知見と方法を運用してさらに考察を行う。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			

第10回	Haegeman2006: Ch.3.2-4「文構造の理論的説明」について 助動詞のない文の構造についての理論的な要請および概念について、導入と考察を行う。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第11回	Haegeman2006: Ch.3 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第12回	日本語の階層構造について 南不二夫の提唱した日本語の階層構造についての文章を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			

第13回	日本語の階層構造について 日本語の副詞(節)に関する論文(野田尚史2013「日本語の副詞・副詞節の階層構造と語順」)を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第14回	日本語の階層構造について 日本語の名詞修飾に関する論文(益岡隆志2013「名詞修飾節と文の意味階層構造」)を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
第15回	日本語の階層構造について 日本語の用言複合体について書かれた著作を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(30%)、理解度確認小テスト(30%)、授業内レポート等の課題(20%)、質疑応答(20%)
その他	0	
教科書		
Thinking Syntactically. A Guide to Argumentation and Analysis./Liliane Haegeman/Blackwell Publishing		
参考文献		

授業内で適宜指示する。

履修条件・留意事項等

テキストは英文なので、英文を適切に読み日本語でまとめられることが条件となる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本語教育学研究 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
国際社会で活躍する日本語教員志望者および現職日本語教師のための外国語教授法理論の探求とより高度な実践方法を研究し、専門的な知識および技能を身につけるための科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、かつ各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。他の「日本語教育学研究」科目、および「日本語学特殊研究」科目と並行して学び、日本語知識を深めながら実践へと発展させる。							
授業の概要							
外国語としての日本語を学ぶために、世界の他の言語を学びながら、実践的に理解する。具体的には授業計画に記されている言語を初級から学び、日本語（および受講者の母語）との比較を常に行いながら各言語および日本語を理解し、教授する際の知識としてこれらのことを修得する。							
到達目標							

1. 各言語の初級文法知識を身につけ、使用できる。 2. それらの方法を用いて他の未習言語の振る舞いを予測できる。 3. 各言語の発音法に応じて発音ができる。 4. 世界の言語について一定程度の配慮ができる。

授業の方法

板書・配布資料・視聴覚メディアを活用しながら、講義形式で進める。ただし毎回の課題および発音、会話の各受講者の理解度を毎時間確認し、徹底的に身につけてもらう。

ICT活用

Google Workspaceに付属している機能(Google Formなど)によって練習問題等を提供し、課題および自主学習を促す。またGoogle Classroomにて参考資料や参考HPを紹介したり、補足資料などを随時提供する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題は基本的にはコピーを提出してもらい、授業内で問題点を共有しつつ自己チェックで各自の問題点を自発的に見つけてもらう。小テストは可能な限り翌週に返却し、課題提出と併せて詳細な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション・イントロダクション 授業の進め方、評価方法、心がまえなどについて説明。 世界の言語:世界の言語はどのようにして分かれたのか、 どれが兄弟・親子関係にあるのかについて。 フランス語(1):アルファベットと発音、名詞と冠詞について 学習する。 韓国語:ハングルの形成法、基本母音字10個を学習する。	自分の外国語学習を振り返り、 学習困難であったときの要因を 振り返る(90分)	フランス語の名詞と冠詞につい て、およびハングルの基本母音 字について復習(180分)
担当教員			
第2回	※以下、各言語について会話文を覚えるほど発音練習し てもらいます。 フランス語(2):人称と動詞変化(活用)について学習する。 韓国語:基本母音字の復習、子音字(가・나・다・라・마・바 ・사)を学修する。 アイヌ語:言語背景、文字と発音、およびあいさつ言葉など の紹介。	フランス語の人称変化に関する 資料を配布あるいは周知するの で読んでおく(60分)	フランス語の人称変化に関する 練習問題、および韓国語の基本 母音字・子音字(가・나・다・라 ・마・바・사)の練習問題(120分)
担当教員			
第3回	フランス語(3):所有形容詞、指示詞について学習する。 韓国語:その他の基本子音字を学習する。 アイヌ語:会話に挑戦!第1課「これはギョウジャニンニク? 」	韓国語の子音字(平音)を復習 してすぐに読めるようにしておく(30分)	フランス語の所有形容詞および 指示詞に関する問題、韓国語の 基本子音字に関する課題(150 分)
担当教員			

第4回	フランス語(4):人称代名詞(対格・与格)、形容詞について学習する。 韓国語:激音、濃音を学習する。そろそろ韓国語会話にも挑戦する。 アイヌ語:会話に挑戦!第1課復習。	韓国語の基本子音字について復習(30分)	フランス語の試験準備、および韓国語の会話暗誦(180分)
担当教員			
第5回	フランス語筆記・会話テスト 韓国語:合成母音字を学習する。引き続き韓国語会話に挑戦。	フランス語筆記テストの準備(120分):事前に昨年のテストを配布します。	フランス語のテスト問題を解く(150分)
担当教員			
第6回	ドイツ語(1):発音および名詞(性および主格)について学習する。 韓国語:パッチムを学習する。 アイヌ語:会話に挑戦!第2課「カラスはトウモロコシを食べる」	韓国語会話練習(30分)	ドイツ語会話を覚える。これまで学んだハングルを確実に覚える(150分)
担当教員			

第7回	ドイツ語(2): 人称および動詞変化について学習する。 韓国語: ハングル発音テストプリントの説明、解説。 アイヌ語: 会話に挑戦! 第2課復習。	ハングルの復習(30分)	ドイツ語の人称変化に関する課題、およびハングル発音テストプリントの復習(150分)
担当教員			
第8回	ドイツ語(3): 冠詞と格について学習する。 韓国語: 指定詞이다, 助詞는/은について学習する。 アイヌ語: 会話に挑戦! 第3課「どこから来たの?」	ハングル発音テストの準備(60分)	ドイツ語の冠詞・格・人称代名詞に関する練習問題(150分)
担当教員			
第9回	ドイツ語: 総復習時間(主に人称代名詞について) 印欧語について(文字・分布・特徴など)学習する。 韓国語: 아니다, 助詞가/이を学習する。 アイヌ語: 会話に挑戦! 第3課復習。	ドイツ語筆記テストの準備(150分)	ドイツ語のテスト準備、および韓国語指定詞の練習問題(120分)
担当教員			

第10回	ドイツ語筆記・会話試験 韓国語:存在詞있다、助詞에を学習する。 アイヌ語:会話に挑戦！第4課「あなたのお名前は？」	ドイツの試験準備(150分)	ドイツ語試験問題を持ち帰って改めて解く(150分)
担当教員			
第11回	アラビア語(主に文字)について簡単に紹介。 韓国語:練習問題をやりながら総合復習。 アイヌ語:会話に挑戦！第4課復習。	韓国語の復習(30分)	アラビア語の文字練習・会話練習、韓国語の復習・会話練習(150分)
担当教員			
第12回	スワヒリ語(1):文字と発音、人称・時制・アスペクトについて学習する。 韓国語:합니다体、関連助詞を学習する。 アイヌ語:会話に挑戦！(その5)	スワヒリ語について事前調査(30分)	スワヒリ語練習問題、韓国語練習問題(150分)
担当教員			

第13回	スワヒリ語(2):名詞クラスについて学習する。 韓国語:数字、およびさまざまな助詞を学習する。 アイヌ語:会話に挑戦!第5課「働いて手が痛い」	スワヒリ語について事前学習(30分)	スワヒリ語および韓国語練習問題(150分)
担当教員			
第14回	スワヒリ語(3):総合復習、会話練習 韓国語:総復習 アイヌ語:会話総復習	韓国語の数字を暗誦(30分)	スワヒリ語テストの準備(180分)
担当教員			
第15回	スワヒリ語テスト、および解説等	テスト準備(180分)	テスト問題解答(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト(筆記および会話暗誦)、授業内の課題(ハングルテスト含む)、授業参加度による総合評価を行う。
その他	0	
教科書		
適宜、講義プリントを配布します。		
参考文献		

白水社「言葉のしくみ」シリーズ
ビジュアル版世界言語百科／ピーター・K・オースティン編／柊風社
事典 世界のことば141／梶茂樹他編／大修館書店
The Languages of the World／Kenneth Katzner／Routledge
ニューエクスプレスプラス アイヌ語／中川裕／白水社
その他、授業中およびGoogle classroomにて適宜紹介します。

履修条件・留意事項等

毎回課題が出ます。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本語教育学研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

日本語・日本文化コミュニケーション領域における外国語としての日本語の教育方法を教材分析や副教材作成を通してに学ぶ科目である。日本語教育に必要な専門的な教授法や言語知識のほか、文化背景を含めた日本語運用の効果的な指導方法を考えていく(知識・技能)。「日本語教育学演習Ⅱ」と併せて履修することで、実践的教育方法の研究につながる。

授業の概要

この授業では、経験の浅い日本語教師または初めての日本語教育に欠かせない日本語教授法の基礎を確認しつつ、タスクベースや教育内容重視の教授法を学び、学習目的に合わせたコースデザインが作れるようにしていく。また、実践的教員育成を目的として、初級・中級レベルの副教材作成とその演習・評価をしながら、教師の自己研鑽となるアクションリサーチ方法を身に付けていく。

到達目標

1. コースデザインとはなにか、具体的に説明できる。
2. 学習者の日本語能力レベルがある程度評価できる。
3. 学習ニーズや目的に合わせた教科書や副教材が選択できる。
4. 学習項目定着のための効果的な練習が提供できる。

授業の方法

教育方法の講義とその部分的学習項目に焦点を当てた模擬授業を行い、その振り返りで自己評価および受講者動詞の意見交換をして、授業改善を考えていく。課題の副教材作成については、受講生どうしが協働して作成し、授業内で公開・発表していく。

ICT活用

Google Classroomを使って、授業資料の配信、課題提示と返却を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は次回授業までに、個別コメントを添えて返却する。優れた課題は講評とともにクラス内で共有する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	多様な日本語学習ニーズを知る 国内外で学ぶ日本語学習者と日本語教師の現状	図書館で、クラス授業で教師が「使いやすい」と思う初級の日本語教科書を1冊選んでおく(90分)	海外でよく使われている日本語教科書と副教材を調べておく(90分)
担当教員			
第2回	コースデザインの作り方 学習者のニーズ調査から教科書選定、授業時間数と達成目標、各自が選択した教科書を使って30時間の初級コースデザインを試作する。	学習者にとって「使いやすい」「学びやすい」と思う初級の日本語教科書を1冊選び、よく読んでおく(120分)	選択した教科書1冊分のおおまかなコースデザインを作っておく(150分)
担当教員			
第3回	日本語の動詞活用 日本語学習者が苦手とする動詞活用に焦点を当て、その具体的な導入と教え方を先行研究文献を読んで、実際に演習してみる。	市販の初級教科書の巻末ページから、日本語文法の各活用表をまとめ、その練習方法を考えておく(90分)	ローマ字を用いた語幹とその活用ルールが説明できるようにしておく(90分)
担当教員			

第4回	第二言語の習得と臨界期 臨界期仮説と敏感期から、言語の条件付け学習(行動主義)に基づいた教授法を体験する	初級文法ルール of 指導方法の いろいろを動画サイトで最小3例 見て、その特徴をレポートにする (150分)	第二言語習得理論にもとづく文 法項目の練習方法のポイントを まとめておく(30分)
担当教員			
第5回	日本語の動詞活用提示とその練習方法Ⅰ 受身文の作り方とそのドリル方法を模擬授業する	受身形の作り方とその練習の教 案と模擬授業を作成する(140分)	動詞の分類方法をまとめ、コミュ ニカティブな練習方法を考えて おく(50分)
担当教員			
第6回	日本語の動詞活用提示とその練習方法Ⅱ 「て形」導入と定着練習の模擬授業を行い、受講生どうして 授業評価を行って改善していく	模擬授業の準備をしておく(120 分)	「て形」定着のための副教材を 作成しておく(90分)
担当教員			

第7回	日本語の文型 受身形と授受表現の定着練習方法 初級と中級の語彙比較	初級語彙・中級語彙の語彙レベルとその語彙を読んでおく(90分)	授受表現の副教材を作成しておく(90分)
担当教員			
第8回	日本語能力試験の語彙レベル N5からN1までの文法項目・語句のレベル分け	日本語能力試験問題集をN1からN3まで最小1冊を解いてみる(120分)	国際交流基金の日本語教育サイトを見て、日本語能力レベルの分類基準をまとめる(60分)
担当教員			
第9回	日本語能力の測定 タスク課題やインタビューで何をどう測定するか	日本語能力試験問題集N5からN3までの語彙を確認しておく(120分)	N3とN4レベル学習者へのティーチャートークを作成しておく(60分)
担当教員			

第10回	評価と試験 評価の種類と目的別試験の分類	相対評価と絶対評価の特徴を調べ、具体例を記した一覧表を作成しておく(120分)	試験の種類と試験問題例をまとめておく(60分)
担当教員			
第11回	初中級レベルとは 初級後期から中期移行期の問題点	中級テキストを1冊選び、第1課(またはUnit 1)から3課までの新出語彙リストを作成する(90分)	初級レベルで未定着度の高い学習項目と、プレ中級に必要な語彙・漢字語をリストアップしておく(90分)
担当教員			
第12回	中級レベルにおける会話指導 会話指導目標の設定	「言語使用の適切さ」について調べておくこと(90分)	「言語操作」の種類とその具体例をレポートにする(120分)
担当教員			

第13回	中級レベルにおけるメディア教材 ドラマ、ニュースを教材として	日本語中級レベル学習者に教材として使いたいニュース映像やテレビドラマ(動画)を1つ選び、そのスクリプト3分間分を作成しておく(150分)	スピーチ指導に効果的なレアリア教材を一つ探し、その使い方を提案できるようにしておく(60分)
担当教員			
第14回	中上級レベルにおける読解教材 精読と速読	生活の中で身近な読解教材を5つ以上採取しておく(90分)	タスクリーディングの教え方に関する事例動画観察または実践報告書を読んでおく(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 教材と教授法の選択と学習定着のための副教材の見直し	指定する学習項目の副教材を作成し、それを使った模擬授業の準備をしておく(150分)	作成した副教材の修正・加筆をして提出する(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題プレゼンテーション(模擬授業等)60%、副教材作成40%
その他	0	
教科書		
図書館で、市販の日本語教科書を各自選択する。		
参考文献		

「日本語教育の参照枠 報告」文化審議会国語分科会、文化庁サイト。『日本語教育への道しるべ 第3巻 ことばの教え方を知る』近藤有美・水野愛子編、凡人社。『テストを作る』関正昭・平岡史也編、スリーエーネットワーク。このほか授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本語教育学演習 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、日本語教育経験が浅いか、日本語教員を志望する者を対象とする。日本語教育の専門家としての高度な知識を備え(知識・技能)、国内外の日本語教育の発展に資する高度なコミュニケーション能力(思考・判断・表現)養成のために、日本語教育教材の分析と演習をとおして、日本語教員に求められる資質・能力を身に付けていく。

授業の概要

日本語教育で即戦力として活躍できる人材となるよう、学習目的別の教材分析を行い、そのうちの1冊を使って、レディネス、コースデザインから、カリキュラムを作成してから、模擬授業を行う。模擬授業は、基本的に受講者同士でピアレビューしていく。

到達目標

1. 日本語学習目的に合わせた教材を選ぶことができる。
2. 主教材で学習効果をあげるための教授法選択や副教材が作成できる。
3. 教師がアクションリサーチをとおして自己成長を続けていける。

授業の方法

前半は市販されている日本語の教科書分析方法を講義形式で行う。教科書分析で目的別に教材分類された後は、それらの教材を用いてどのように日本語学習が促進できるか模擬授業を行う。教科書を効果的に運用するために、副教材に何が必要かをディスカッションする。なによりも、教師に求められる資質や教授能力を自律的にリサーチすることで自己成長を図っていきたい。

ICT活用

授業等の資料や課題はGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

模擬授業の評価はその場でコメントを出し、提出課題は次回の授業までにコメントを付けて個別返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション 日本語教師に求められる資質 アクションリサーチとは	国際交流基金サイトから、最新の海外の日本語学習者数の動向を調べておく(90分)	文科省サイトから最新の「国内の日本語教育の概要」を読んでおく(90分)
担当教員			
第2回	日本語教材分析Ⅰ 一般的な初級レベルの教科書とコースデザイン例	代表的な初級日本語教科書を1冊読んでおく(90分)	市販の日本語教科書3種に目を通しておく(90分)
担当教員			
第3回	日本語教科書分析Ⅱ 外国人児童生徒等のための教材とその使い方	国内の外国人児童生徒に関する日本語学習上の問題を調べておく(90分)	ネット等で非漢字圏学習者の漢字学習ストラテジー例を読んでおく(90分)
担当教員			

第4回	日本語教科書分析Ⅲ 留学生のための日本語教材	日本語能力試験・日本留学試験の日本語出題レベルと内容を調べておく(90分)	CEFRと日本語能力のレベル対応表をつくる(90分)
担当教員			
第5回	日本語教科書分析Ⅳ 就労者に対する日本語教材	厚労省の「就労場面で必要な日本語能力の目ツール」を読んでおく(90分)	在留資格の種類と日本語能力の要件を確認しておく(90分)
担当教員			
第6回	日本語教科書分析Ⅳ 医療・介護者への日本語教材	国内の看護・介護等の医療人材不足を確認しておく(90分)	外国人介護職における日本語能力基準を調べておく(90分)
担当教員			

第7回	対象別日本語教科書の選定 日本語模擬授業を行うために:学習者別の教科書と主たる教授法の選択	各自が対象別日本語教育の教科書から1冊を選んでおく(90分)	選定した教科書を何度も読んで、「Can do」の積み上げを理解しておく(90分)
担当教員			
第8回	教案の書き方 クラス設定と学習環境等に合わせたレッスンプランの立て方	教案の書き方を読んでおく(90分)	多国籍学習者クラスの教室用語をまとめておく(90分)
担当教員			
第9回	模擬授業 I 30分ずつ2名が授業を行い、授業の振り返りを行う。	教案作成(90分)	教案の修正を行う(90分)
担当教員			

第10回	模擬授業Ⅱ 30分ずつ2名が授業を行い、授業の振り返りを行う。	教案作成(90分)	教案の修正(90分)
担当教員			
第11回	模擬授業Ⅲ 一人45分の授業を行い、授業の振り返りを行う。	教案の作成(90分)	アクションリサーチ(90分)
担当教員			
第12回	模擬授業Ⅳ 一人45分の授業を行い、授業の振り返りを行う。	教案の作成(90分)	アクションリサーチ(90分)
担当教員			

第13回	模擬授業Ⅳ 一人45分の授業を行い、授業の振り返りを行う。	教案の作成(90分)	アクションリサーチ(90分)
担当教員			
第14回	アクションリサーチ経過報告 各自の研究トピックを共有する	各自のアクションリサーチをメモしておく(90分)	アクションリサーチ経過をまとめておく(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 学習者別の教材と教育方法等の振り返りプレゼンを行う	教科書分析と模擬授業振り返り等のプレゼン準備(90分)	アクションリサーチ報告書を作成する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	教案を含む模擬授業60%、アクションリサーチ・課題40%
その他	0	
教科書		
日本語教科書は図書館で貸し出している市販の教科書から、講師が指定する8種の中から1冊を選択し、それを借りて模擬授業を行う。また、教案作成で参照する『日本語教育の参照枠』等の文化庁資料は、各自でダウンロードし、随時参照する。		
参考文献		

『JF日本語教育スタンダード』国際交流基金、『就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール 使手引き手引き』厚生労働省など、授業や課題提示時に適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		言語文化コミュニケーション・コース 日本語・日本文化コミュニケーション領域					
科目名		日本語教育学演習Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、日本語教育職を目指す学生に欠かせない「日本語・日本文化コミュニケーション領域」科目群の一つで、理論の「日本語教育学研究Ⅱ」と併せて履修することを勧める。日本語の教育に関する専門的な知見を活かし、その実践力を身に付けるため、日本語教育方法の理論的・実践的知見を習得しながら、自らの実践と研究に活用できることを目指している。(知識・技能)

授業の概要

この授業では、日本語教育の実践またはその研究において欠かせない日本語教育の実際を、模擬授業やミニ演習(デモンストレーションやドリルプレゼンテーション)等を行うことで自律的教育研究姿勢を図っていく。模擬授業の振り返りは録画を見返しながら自己評価や受講者どうしで相互評価を行い、教育方法の改善につなげていく。

到達目標

1. 「日本語教育参照枠」が理解できる。
2. 「日本語教育スタンダード」教科書を活かした授業教案が書ける。
3. 教科書の練習問題を補完する練習教材がつかれる。

授業の方法

実践的な日本語教育を目指し、ほぼ各回で指定の学習項目に関するプレゼンテーションや模擬授業を行い、授業後は受講生どうしの相互評価することで、授業改善につなげていく。

ICT活用

受講生はGoogle Classroomに課題や模擬授業前に教案を投稿する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題はすべて次回までに個別コメントを添えて返却する。模擬授業教案については、授業前指導が必要なことから、できるだけ早くGoogle Classroomで返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	海外における日本語教育の現状と課題 教科書分析による選定と学習者	国際交流基金サイトで、最新の「海外における日本語教育の現状」を読んで、前回調査と比べて変化した事項を調べておく(90分)	海外で使用されている言語別教科書を読み、学習ニーズを分析しておく(90分)
担当教員			
第2回	「スタンダード」日本語とは 何をどう教えるか、何ができるようになるかを教科書で分析する	国際交流基金サイトで最新の『JF日本語教育スタンダード 新版 利用者のためのガイドブック』を読んでおく(150分)	JFスタンダードに基づいた教科書を探しておく(90分)
担当教員			
第3回	「日本語教育の参照枠」から I 生活分野別の日本語教育 日本語能力測定:JFT-BasicとJLPT	文化庁サイトで最新の『日本語教育の参照枠 報告』をひととおり読んでおく(150分)	生活分野別の言語能力記述文をよく読んでおく(90分)
担当教員			

第4回	「日本語教育の参照枠」からⅡ 外国人就労(特定技能)者のための日本語教育	日本の外国人労働者数の受入れ動向と職種傾向を調べておく(60分)	外国人就労者のための日本語教育の現状をレポートする(150分)
担当教員			
第5回	初級A2レベル 「話すこと」の模擬授業と振り返り	模擬授業用の教案を作成しておくこと(120分)	教案を修正・加筆して、清書したものをファイリングしておく(60分)
担当教員			
第6回	初級A2レベル 「聞くこと」の模擬授業と振り返り	模擬授業用の教案を作成しておくこと(150分)	教案を修正・加筆し、ファイリングしておくこと(30分)
担当教員			

第7回	初級A2レベル 「やり取り」の模擬授業と振り返り	模擬授業用の教案を作成しておくこと(150分)	教案を修正・加筆し、ファイリングしておくこと(30分)
担当教員			
第8回	初級A2レベル 「読むこと」の模擬授業と振り返り	400字程度の読解教材を選定して教案を作成する。語彙リストも学習者に配布できるようにしておく(150分)	読解教材の適切さやタスク等、模擬授業の振り返りのレポートを書く(90分)
担当教員			
第9回	初級A2レベル 「聞くこと」模擬授業と振り返り	模擬授業の教案を作成しておくこと(120分)	教案を修正・加筆してファイリングしておくこと(90分)
担当教員			

第10回	初級 A1-A2レベル 「話すこと」模擬授業と振り返り	模擬授業の教案を作成しておくこと(120分)	教案を修正・加筆し、ファイリングしておくこと(60分)
担当教員			
第11回	初級A1-A2 レベル 発音指導の方法	日本語の音声特徴について調べておくこと(90分)	母語話者別の音声指導の方法をレポートにする(90分)
担当教員			
第12回	初級B1.1レベル 「読むこと」の模擬授業と振り返り	800字以内の新聞記事や出来事ニュース原稿を準備し、教案にしておく(150分)	教案を改善しておく(30分)
担当教員			

第13回	初中級 B1レベル 「聞くこと」の模擬授業と振り返り	包括的な聴解教材を図書館で探して、教案を作成しておく(150分)	教案を修正・改善しておく(30分)
担当教員			
第14回	初中級 B1レベル 「話すこと」模擬授業と振り返り	教案を作成しておくこと(150分)	模擬授業の振り返りレポートを作成する(90分)
担当教員			
第15回	中級 B1－B2レベル 「やりとり」模擬授業と振り返り	教案を作成しておくこと(150分)	振り返りレポートを作成する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業(教案含む)80%、確認テスト20%
その他	0	
教科書		
プリントを配布する。 模擬授業教科書は個別に指定するので、図書館で借りておく。		
参考文献		

『JF日本語教育スタンダード』および『JF日本語教育スタンダード[新版]利用者のためのガイドブック』を国際交流基金日本語国際センターからダウンロード。「日本語教育の参照枠」文化審議会国語分科会、文化庁からダウンロード。『日本語教育の参照枠』の活用のための手引き」文化庁からダウンロードする。このほか授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		地域コミュニケーション・コース 地域コミュニケーション領域					
科目名		地域活性化システム論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭						
授業の位置づけ							
言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる(関心・意欲・態度) 各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけることができる(思考・判断・表現) 地域創生・SDGsの課題とは何かを発見し、グループによる対話から、解決方法を立案のうえ、発表するもの。							

地域創生の本質を調査分析でき得る能力を身に付けることができる。地域現場の問題点から課題を整理し、最適な政策立案をでき得る能力を研くことができる。グループ対話から発表まででき得る人財養成をするもの。

授業の方法

対面によるもの。外部講師は対面またはオンラインとする。

ICT活用

受講生は、各自PC持参とし、講義資料はペーパーレスとする。

実務経験のある教員の教育内容

国内外年間100箇所超の地域現場を回り、最新情報を講義のうえ、第一線の外部講師からの情報を得て、グループ対話するもの。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義時に理解度を確認のうえ、質疑の時間を設ける。また、グループ発表時には助言、コメントをするもの。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	講義全体の説明、地域創生の本質を説明、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	木村 俊昭		
第2回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域人財の現状と政策的課題	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	木村 俊昭		
第3回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域創生人財論の視点	講義内容の整理、テキスト熟読90分。	講義内容の整理、テキスト熟読90分。
担当教員	木村 俊昭		

第4回	受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域創生の構成と政策主体としての自治体	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第5回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 従来の地域リーダーの資質	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第6回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 人財養成の研修事例の現状と課題	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		

第7回	受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 今、求められる地域リーダー像	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第8回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域人材から地域人財への進化策	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第9回	受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 五感分析と基幹産業分析の実践	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		

第10回	受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 基幹産業なきまちの打開策	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第11回	グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域創生リーダー養成プログラムの実践	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第12回	グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域人財の類型	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		

第13回	グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 地域内連携型と住民対話重視型	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第14回	グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着 トップセールス型の地域実践型	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
第15回	グループ発表、総評、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。	講義内容の整理、テキスト熟読 90分。
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	グループ対話、発表を総合的に評価するもの。
その他	0	なし。
教科書		
「地域創生 成功の方程式」木村俊昭(ぎょうせい)「地域創生の真実」木村俊昭(世音社)ほか、講義時に随時、紹介する。		
参考文献		

随時、講義時に紹介する。

履修条件・留意事項等

第1回目に講義全体の流れ、グループ対話、発表方法等を説明するので必ず出席のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		地域コミュニケーション・コース 地域コミュニケーション領域					
科目名		地域ビジネス特論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔						
授業の位置づけ							
大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている」内容に位置づける。							
</							

地域ビジネスの概念を理解して、先進事例等が説明できる。
地域ビジネスを地域の実情の元に考案できること。

授業の方法

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地域資源活用調査の実績のある大学教員

課題に対するフィードバックの方法

返却時にレポートや質問への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	地域ビジネスとは何か 地域ビジネスの概要や体系を理解する	シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)	授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。(150分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第2回	地域おこし・まちづくり・観光ビジネスモデル 地域資源を事業活動に組み合わせながら、観光や集客につなげる地域ビジネスモデルなどを学ぶ。農山村の地域おこしや都市部の街づくりのビジネスモデル、温泉街等の観光ビジネスモデル等について事例を通して解説し、その効果や課題及び解決方法について議論等を行う。	インターネットでまちづくり・観光ビジネスについて検索して学習する。(90分)	まちづくり・観光ビジネスの考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第3回	介護・福祉ビジネスモデル 高齢者への移動式の買い物サービスや宅配、介護支援、交流や健康など、生活の暮らしをサポートする地域ビジネスモデルなどの先進事例を取り上げ解説し議論を進める。	インターネットで介護・福祉ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(120分)	介護・福祉ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(60分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第4回	環境・農業ビジネス 環境保全(リサイクルやエネルギー問題他)や地域特産品の生鮮品を新鮮な状態を保ち、届ける、地元での農産品を販売したい人と購入したい人をつなぐビジネスなどの先進事例を取り上げながら学ぶ。	インターネットで環境・農業ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	環境・農業ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(120分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第5回	ITビジネス:オンライン他のシステム開発や、地域ビジネスの支援にクラウドファンディングを活かすなどの事例を取り上げ解説して学ぶ。	インターネットでITビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	ITビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第6回	就業支援のビジネス 地域の課題解消と事業実現に合わせて、地域の雇用を新しく生み出す支援活動などの先進事例を学習し議論する。	インターネットで就業支援のビジネスを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	就業支援のビジネスについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第7回	道の駅の地域ビジネス その1 全国的な地域振興に貢献している道の駅について、その成り立ち、経緯から現在の特徴まで解説して、地域課題の解決への寄与、課題解決の方向性などを解説して、議論する。	インターネットで道の駅の特徴と地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	道の駅のビジネスについての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第8回	道の駅の地域ビジネス その2 地域ビジネスを展開する道の駅の経営の在り方、6次産業化、地域・教育貢献も踏まえて先進事例を通して学習する。今後の方向性等について議論を深める。	インターネットで道の駅の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	道の駅の地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第9回	地域運営組織としての地域ビジネス その1 地域住民が主体となって行政の支援も伴いながら地域課題の解決や地域の持続的発展を目指す地域運営組織について学習し、全国的な先進事例も学び、今後の方向性等を議論する。	インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第10回	地域運営組織としての地域ビジネス その2 地域住民が主体となって行政の支援も伴いながら地域課題の解決や地域の持続的発展を目指す地域運営組織について学習し、全国的な先進事例も学び、今後の方向性等を議論する。 雲南市、庄原市などの先進事例の調査解説も行う。	インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第11回	地域運営組織としての地域ビジネス その3 地域住民が主体となって行政の支援も伴いながら地域課題の解決や地域の持続的発展を目指す地域運営組織について学習し、全国的な先進事例も学び、今後の方向性等を議論する。 長門市湯本温泉の湯本まち株式会社等の先進事例の調査解説も行う。	インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第12回	地域商社 地域経営会社等の事例 地域商社とは、地域関係者と協力し、地域資源をブランド化から販売までをプロデュースする組織のこと。資源は農作物や工芸品等で、地域内外に販売している。関連して山口県で行っている地域経営会社についても学習して議論を深める。	インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第13回	エリアマネジメント その1 エリアマネジメントは、特定地域にて、事業者、地権者、住民等の民間が主体となって、まちづくりや地域経営を積極的に行う取組みを指す。その特徴や先進事例を学習し議論する。	インターネットでエリアマネジメントの特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	エリアマネジメントの特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第14回	エリアマネジメント その2 エリアマネジメントについて札幌市の札幌駅前通まちづくり株式会社のエリアマネジメント事例などを取り上げ、その特徴や効果、課題を議論する。	インターネットで札幌市のエリアマネジメントの特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	エリアマネジメントの特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第15回	全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。	今までの学習の総復習を行う。(90分)	今までの議論をもとに課題レポートを仕上げて提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業参加度(20%)、演習シート等の提出(30%)、全体レポート等(50%)。
その他	0	なし。
教科書		
オリジナル資料を配布する。		
参考文献		

特になし。

履修条件・留意事項等

原則すべての出席。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う。

地域ビジネスの概念を理解して、先進事例等が説明できる。実際に地域ビジネスモデルを地域の実情の元に考案できること。

授業の方法

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地方自治体や国家公務員の実績、地域資源活用調査の実績のある大学教員。

課題に対するフィードバックの方法

返却時にレポートや質問への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	地域ビジネスの先進事例をもとに学び直し 地域ビジネスの概要や体系を理解して先進事例をもとに学び直し、成功事例について議論を深める。企画書を検討する。	シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)	授業の概要を復習し、演習シートに取り組み提出する。(150分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第2回	地域ビジネスモデルの適用地域を探索する。その1	インターネットで地域ビジネスモデルの適用地域を探索し、検索して学習する。(90分)	復習して作業を継続し、演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第3回	地域ビジネスモデルの適用地域をさらに深く探索する。その2 地域ビジネスモデルの適用地域をさらに深く探索して、個別指導で相談しながら議論を進める。	インターネットで地域ビジネスモデルの適用地域をさらに深く探索して、地域を絞り込む調査をしておく。(90分)	適用地域をほぼ絞り込み、演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第4回	適用地域の現況と動向、地域資源の探索 適用地域が決定後に、人口や土地利用等の現況と動向、歴史、文化、産業、特産品等の地域資源の探索等をネット情報を基本に行う。	インターネットで事前に調査しておく。(90分)	さらに作業の継続を行い、演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第5回	適用地域に類似した地域ビジネスモデルを探索して先行事例調査を実施する。	インターネットで適用地域に類似した地域ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。その1(90分)	類似地域ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第6回	適用地域に類似した地域ビジネスモデルをさらに探索して先行事例調査を実施する。その2	インターネットで適用地域に類似した地域ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	類似地域ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第7回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その1 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。 (90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第8回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その2 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。 (90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第9回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その3 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。 (90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第10回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その4 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 5W1Hは確定し、実施に向けてのフローチャートは完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。 (90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第11回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その5 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書概要を完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。 (90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第12回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その6 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書を完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画書作成の準備をする。 (90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第13回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。 その7 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、 検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書と運営手法を完成させる。	インターネット等の活用で適用 地域の地域ビジネスモデルの内 容を企画書作成の準備をする。 (90分)	適用地域の地域ビジネスモデル の内容を企画、検討して、。考え 方、手法、先進事例を復習して 演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第14回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を最終的に企画し 発表する。その8 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、 検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書と運営手法、予算想定を完成させる。	インターネット等の活用で適用 地域の地域ビジネスモデルの内 容を企画書作成の準備をする。 (90分)	適用地域の地域ビジネスモデル の内容を企画、検討して、。考え 方、手法、先進事例を復習して 演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第15回	全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行 い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。	今までの学習の総復習を行う。(90分)	今までの議論をもとに地域ビジ ネスモデル全体企画書を仕上 げて提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業参加度(20%)、各授業の演習シート等の提出(30%)、全体企画書等(50%)。
その他	0	なし。
教科書		
講義時にオリジナル資料を配布する。必要に応じ、随時、紹介する。		
参考文献		

必要に応じ、随時、参考文献を紹介する。

履修条件・留意事項等

原則すべての出席。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		地域コミュニケーション・コース 地域コミュニケーション領域					
科目名		地域創生・SDGs特論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔						
授業の位置づけ							
大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。」内容に位置づける。							

地域創生・SDGsの概念や知識を理解して、先進事例等が説明できる。実際に地域創生・SDGsの地域モデルや政策立案を地域の実情の元に考案できること。

授業の方法

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地方自治体や国家公務員の実績、地域資源活用調査の実績のある大学教員

課題に対するフィードバックの方法

返却時にレポートや質問への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	地域創生・SDGsとは何か 地域創生、SDGsの定義、経緯、関連性、体系について学び、その課題や方向性なども議論しあう。	シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)	授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。(150分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第2回	地域創生論 その1 地域創生の政策や全国的な取り組み、先進事例等について解説し、議論等を行う。	インターネットで地域創生、まちづくりについて検索して学習する。(90分)	地域創生、まちづくりの考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第3回	地域創生論 その2 道の駅編 我が国の地域イノベーションとなった道の駅等を解説し議論を進める。	インターネットで道の駅、道の駅の地域ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(120分)	道の駅について考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(60分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第4回	地域創生論 その3 道の駅の高度化編 道の駅の高度化、災害支援対策などを学び、その方向性等を議論しあう。	インターネットで環道の駅の高度化、災害支援を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	道の駅について考え方、手法、高度化、災害支援などの先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第5回	地域創生における官民連携の取り組み 地域創生を効果的に進めるうえで欠かすことができない、官民連携の取り組みを学習し、議論しあう。PPP事業の体系、PFI事業やパークPFI事業、指定管理者制度などを学びその課題や方向性などを議論しあう。	インターネットで官民連携を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	官民連携事業についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第6回	SDGsの概要 世界規範となっているSDGsの経緯、目的、内容等の概要を理解してその知識を習得する。また17の目標の先進事例を学習し議論する。	インターネットでSDGsの概要を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	SDGsの概要についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第7回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その1 17の目標と先進事例の概要などを解説して、課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第8回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その2 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第9回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その3 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第10回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その4 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第11回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その5 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第12回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その6 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第13回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その7 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第14回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その8 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第15回	全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。	今までの学習の総復習を行う。(90分)	今までの議論をもとに課題レポートを仕上げて提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(20%)、各授業の演習シート等の提出(30%)、全体レポート等(50%)。
その他	0	なし。
教科書		
講義時にオリジナル資料を配布するものとする。また、適宜、参考資料を紹介する。		
参考文献		

必要に応じて、適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

原則すべての出席。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行うこと。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		地域コミュニケーション・コース 地域コミュニケーション領域					
科目名		地域創生・SDGs特論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔						
授業の位置づけ							
大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている」内容に位置づける。							

地域創生・SDGsの概念を理解して、先進事例等が説明できる。実際に自治体の総合計画の改訂版を地域創生・SDGsを活用して地域の実情の元に考案できること。

授業の方法

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地方自治体や国家公務員の実績、地域資源活用調査の実績のある大学教員。

課題に対するフィードバックの方法

返却時にレポートや質問への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	SDGsを活用した自治体の総合計画改定 その1 いくつかの自治体の総合計画をダウンロードして、学習する。企画書を検討する。	シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)	授業の概要を復習し、演習シートに取り組み提出する。(150分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第2回	自治体の総合計画改定の適用地域を探索する。その2 住んでいる自治体の総合計画をはじめ、関心の高い自治体を探索して適用地域の議論をする。	インターネットで自治体の総合計画改定の適用地域を探索し、検索して学習する。(90分)	復習して作業を継続し、演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第3回	地域創生・SDGsを活用した自治体総合計画改定の適用地域をさらに深く探索する。その3 地域創生・SDGsを活用した自治体総合計画改定の適用地域をさらに深く探索して、個別指導で相談しながら議論を進める。	インターネットで自治体総合計画改定の適用地域をさらに深く探索して、地域を絞り込む調査をしておく。(120分)	適用地域をほぼ絞り込み、演習シートを提出する。(60分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第4回	適用地域の現況と動向、地域資源の探索 適用地域が決定後に、人口や土地利用等の現況と動向、歴史、文化、産業、特産品等の地域資源の探索等をネット情報を基本に行い、課題抽出も検討する。必要に応じて自治体への質問も行う。	インターネットで事前に調査しておく。(90分)	さらに作業の継続を行い、演習シートを提出する。(120分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第5回	適用地域に類似した自治体総合計画を探索して先行事例調査を実施する。	インターネットで適用地域に類似した自治体総合計画を検索し、先進事例などを調査しておく。その1(90分)	類似地域の自治体総合計画について考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第6回	適用地域に類似した自治体総合計画をさらに探索して先行事例調査を実施する。その2	インターネットで適用地域に類似した自治体総合計画を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	類似地域の自治体総合計画について考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第7回	適用地域の自治体基本構想の改定内容を企画、検討する。 その1 適用地域に見合った自治体基本構想の内容を企画、検討して議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の自治体基本構想の内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の自治体基本構想の内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第8回	適用地域の自治体基本計画の改定内容を企画、検討する。 その2 適用地域に見合った自治体基本計画の内容を企画、検討して詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の自治体基本計画の内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の自治体基本計画の内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第9回	適用地域の自治体基本計画の内容改定を企画、検討する。 その3 適用地域に見合った自治体基本計画の内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の自治体基本計画の内容改定をさらに企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の自治体基本計画の内容改定をさらに企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第10回	適用地域の実施計画の改定内容を企画、検討する。その4 適用地域に見合った実施計画の改定内容を企画、検討して詳細に議論をする。 5W1Hは確定し、実施に向けてのフローチャートは完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第11回	適用地域の実施計画の改定内容を企画、検討する。その5 適用地域に見合った実施計画の改定内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の改定内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の実施計画の改定内容を企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第12回	適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討する。その6 適用地域に見合った総合計画全体の改定内容を企画、検討して詳細に議論をする。 全体的な企画書を完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画書作成の準備をする。(90分)	適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		

第13回	適用地域の総合計画全体の改定内容をさらに企画、検討する。その7 適用地域に見合った総合計画全体の改定内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の総合計画全体の改定内容の準備をする。(90分)	適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第14回	適用地域の総合計画全体の改定内容を最終的に企画し発表する。発表後に議論を深める その8 適用地域に見合った総合計画全体の改定内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の総合計画全体の改定内容を完成させ発表の準備をする。(90分)	適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討して考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
第15回	全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。	今までの学習の総復習を行う。(90分)	今までの議論をもとに総合計画全体の改定全体総合計画を仕上げて提出する。(90分)
担当教員	木村 俊昭、熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(20%)、各授業の演習シート等の提出(30%)、改訂版総合計画等(50%)。
その他	0	なし。
教科書		
講義時にオリジナル資料を配布する。講義時に必要に応じ、随時、紹介する。		
参考文献		

講義時に必要に応じ、随時、紹介する。

履修条件・留意事項等

原則すべての出席。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う。